参考資料２

第２次匝瑳市総合計画策定に係る市民懇談会（子育て世代対象）　結果概要

○開催日時　　平成３０年６月１９日（火）　１４時００分～１５時１５分
○場　　所　　匝瑳市つどいの広場　つくし（野栄福祉センター２階）
○参 加 者　　１２名
○市出席者　　（特別職）太田市長
（事務局／企画課）大木課長、江波戸主査、小林主査
（秘書課）大木課長、畔蒜副主幹

発言者	内　　容
	１．開　会
	２．市長あいさつ
	３．自己紹介 ※市出席者紹介
	４．テーマ **⑴　匝瑳市にこんな取組があるといいなと思うこと。** 《参加者からの質問・意見》
参加者	・　消防団について、子育て世代のお父さんが多く、練習に励むため、家にいる時間が１～２時間しかなく、シングルマザーの状態が日々続いている。消防団は１２人いないと抜けられない制度があるため、抜けるのは約１０年後になるであろうと想定している。その間にも子どもがどんどん成長していく。私は匝瑳市が地元ではないので自分の親には頼れないので子育てが大変。韓国の兵役みたいに、「何歳～何歳の間に何年間消防団に入る」という決まりがあれば、ずっと消防団に所属しなければならないという事が無くなり、少しは家庭に入ってもらえるのではないかと思う。大会を１年に１回ではなく、２年に１回にしていただけると助かる。消防団は無くてはならない存在だとは思うが、もう少し平等にして欲しい。
市　長	・　若いお母さん方の気持ちはわかる。そのような意見は「市長への手紙」にも来ている。全国的に消防団員が減っており、少しでも多く消防団員になってもらいたいと全国の自治体がお願いしている状態である。私から消防団の幹部の方に、家庭と育児のために練習が終わったらすぐに家に帰るよう伝える。消防団員の奥様は内助の功と言われているので、お父さんを盛り上げてもらいたい。
参加者	・　消防団の入団方法は勧誘以外に何かあるか。
市　長	・　自主的に入る以外に年齢制限等の規制は無い。誰でも入れるようになっているが、それでも定員割れしている。
事務局	・　消防団活動が無い時は、ご主人は積極的に子育てに参加しているか。

参加者	・　疲れ切っており、子育てに参加できていない。
参加者	・　私は現在、上の子どもが１年生で、真ん中と下にも子どもがいるが、家の前が県道のため、危なくて小学生が家から学校まで歩いて行けない。近くの集合場所まで送り、そこから歩いて行っている。自分の家から歩いて行けるように安全の確保をして欲しい。八日市場幼稚園を出ているが、年々人数が減っており、３歳児のクラスに今年は４人しかいない。入園者も一桁である。下の子も八日市場幼稚園に入れたいと思っているが、これだけ少ないと他の選択肢を考えてしまう。出来れば幼稚園を盛り上げていただきたい。一番は交通の安全の確保、私はこの辺が地元ではないので分からないが、国道も人が歩いていないイメージがある。中学生は無理やり自転車で通学しているが、トラックもスピードを出して走っていて、道も狭いので危ない。そのような箇所が沢山あると思う。商店街も若い人が入れるような店があるといい。
市　長	・　通学・通園の道路は教育委員会と一緒になってやっているので、危険な箇所をどんどん教えていただき、やれる所は努力していく。子どもの数については、幼稚園の子どもの数は減っているが、保育園は多くなっている。市としても近い将来は八日市場幼稚園とのさか幼稚園を一緒にする方向で話し合うと思う。その後は、こども園として、幼稚園と保育園を一緒にして合併せざるを得ない時代にきている。幼稚園の園児が少なくなっていることは皆苦慮しており、幼稚園の教育が活発になるように努力する。人口減少、共働きで保育園の家庭が多い中、統合やこども園という形でやらなければならないと思っている。 今後、子ども医療費は高校生世代まで無料になる。幼稚園・保育園の保育料は第３子以降は無料になる。
参加者	・　私は双子を育てているが、堀川地区は双子が多い。４月からこども園に入り、やっと子育てが落ち着いているが、初めての子どもが双子で子育てのサポートの選択肢があまりにも無くて辛い時期があった。旦那の両親と二世帯で暮らしているが、自営で農家をやっておりサポート出来る人がいない。シングルで双子をみる時間が多く、一人が病気で一人が元気な場合は大変だった。実家も遠く頼れる人がいない場合、他の市は「ファミリー・サポート・センター」という、市の中で手が空いている人がお手伝いに来るサポートがある。横芝光町にはある。形だけでもサポートがあると母親としては有り難い。シルバー人材センターの取り組みとして子育て支援の部門を作っていただくことは出来ないか。
市　長	・　「ファミリー・サポート・センター」については、匝瑳市子ども・子育て支援事業計画の中に検討事項として入っている。良い形で実現出来るように努力する。
参加者	・　病児保育という選択肢も無かったので、病気になったらどこに預ければいいのか分からない。
市　長	・　「ファミリー・サポート・センター」となると、人材や予算面の問題もあるので、成田市の例を調べてみる。シルバー人材センターではサポートが難しいとい

	う回答だったか？
参加者	・　シルバー人材センターでは例が無かったが、派遣してくれるという約束はしていただいた。
市　長	・　「ファミリー・サポート・センター」を立ち上げれば、シルバー人材センターの方でも入っていただける可能性はあるので、参考にさせていただく。
参加者	・　３人目を考えているが、金銭的に無理をしなければならない状況なので、お祝い金等があるといい。以前はあったようだが無くなったと言われた。
事務局	・　以前、「こんにちは赤ちゃん事業」というものがあった。そのような意見はいただいている。現在庁内で検討する組織として「子育て支援対策委員会」があり、そこで経済的な対策を検討することになっている。今後、新たな方策を打ち出せるのではないかと思っている。
市　長	・　各自治体で子育て支援に関しては様々な取組がある。旭市では、おむつを無料に近い形で支給されている。匝瑳市ではやっていないが、それに代わる施策で子ども・子育てに予算を回している。良いことばかりだと天井知らずになってしまうので、各自治体でも最高の施策として頑張っていることをご理解いただきたい。
事務局	・　第３子以降の保育料無料化は、今では近隣の自治体でも実施しているが、太田市長が始めたものである。
参加者	・　出産した後に有料で赤ちゃんとお母さんが泊まれる産後院があるといい。保健師・看護師がいて、夜泣きノイローゼになりそうな時にサポートをしてくれる所である。東京都中野区にはある。匝瑳市だけでなくても、近隣に出来たらいいなと思っている。赤ちゃんを連れて行けるカフェが欲しいので市から推奨していただけないか。例えば、図書館が充実しているので、そこにコーヒーマシーンを入れて、座って絵本を読みながらおしゃべりが出来る部屋があるといい。絵本を借りて持ち返り、後日返すのは大変なので、その場で読んでその場で返却したい。図書館を有効利用したらいいのでは。
市　長	・　図書館に子ども専用のスペースがあったと思うが。
参加者	・　そういう所はあるが、お母さんがお茶を飲み、おしゃべりをしながら子どもを安全に遊ばせられる所が欲しい。図書館は静かにしなければない所なので、絵本を読んでいても気にしないといけないし、気を使う。
市　長	・　１つ目は、少しハードルが高いと思ったが、２つ目の方は、やり方によっては可能なのかもしれない。
事務局	・　子育て世代包括支援センターを来年４月に開設予定なので、それに併せて整えていければと考えている。
参加者	・　シルバー人材センターに登録する程でもないお年寄りの方は沢山いると思うので、その方々に赤ちゃんのことを勉強してもらった上で面倒をみていただけると嬉しい。世代間の交流が出来たらお互いに嬉しいし、良いことだと思う。

	⑵　匝瑳市を魅力あるまちにするために、「自分たちならこんなことができる。」と思うこと。
	《参加者からの質問・意見》
参加者	・　朝市などのマルシェが定期的に行われているが、沢山、人が集まるので、イベントを増やしたらいいと思う。市役所の裏の公園は、市役所から借りるのか。簡単に借りられるのか。
市　長	・　市役所である。イベントの際は色々とチェックが入ると思うが。運動やスポーツをするのは自由だが、イベントとなると許可が必要である。カラーズも最初は様子を見ながらだった。企画などが必要になると思う。
事務局	・　具体的なイメージはあるのか。
参加者	・　まだ、具体定なイメージはない。
市　長	・　そうさ記念公園では、カラーズのイベントや自動車ショーを開催し盛り上がったので、市としても良いイベントにはどんどん使ってもらいたい。
参加者	・　目玉になるものがあれば県外の人も来てくれると思う。
市　長	・　企画があれば市へお願いします。
参加者	・　何が出来るかは難しい。技を持っているわけではないので。
市　長	・　皆さんは、つくしとたんぽぽの両方を利用しているのか。
参加者	・　利用している。地元ではないので集まる場所が分からない。集まる場所があれば企画をして出来ないことはないが、子どもが小さいので一人だと難しい。子どもを見てもらう人がいないと中々出来ない。 　例えば、流しそうめん・ツリーハウス・秘密基地等、自然が沢山あるので小さい頃にやってみたかったけどやれなかった事を企画して大真面目にやったら意外と大人も楽しめるのではないか。住まいが春海の方なので工業団地が近く外国の方が多い。小さい頃から外国の方と交流出来る場があればいいと思う。特にヨーロッパの方は２，３時間の移動時間は苦にならないようなので、そういう外国人に優しいまちになればもっと人が住んでくれるのではないか。バーベキュー等をやっている所もあるようだが、もっと大々的に行い外国の方との垣根を低くする活動が出来たらいいなと思う。
	⑶　将来、匝瑳市がこんなまちになっているといいなと思うこと。
	《参加者からの質問・意見》
参加者	・　将来ではないが、公園の整備をもう少ししていただきたい。以前、椿海公園の丘の上に遊具があったが撤去されてしまった。また、野栄ふれあい公園の遊具が壊れているのかロープが張ってあり立ち入れないようになっている。
市　長	・　一度怪我をした方がいるという理由もあると思うが、ロープを外せるように努力する。

参加者	・　野栄ふれあい公園の滑り台のクッションの砂が減っていて危ない。
参加者	・　野栄ふれあい公園のバスケットゴールの周辺で中学生くらいの少年が酒盛りをしているので、見回り等をしていただけると安心できる。
参加者	・　近隣も含め日曜日に遊びに行く所が無い。家の中にずっといるお母さんは日曜日くらい外に出たいと思っているが、赤ちゃんを連れて行けるマットがあるような場所が無い。公園はあるが、共有のスペースなのにゲートボールをやっているので居づらくて帰ったことがある。将来的には、行きやすい屋内の施設があると嬉しい。
市　長	・　つくしとたんぽぽの開催はどうなっているのか。
事務局	・　週３日開催の土日休みで、第１・３土曜日はたんぽぽで開催している。
参加者	・　先日、そうさ記念公園のカラーズのイベントに参加したが、日陰になる所がなかった。子どもが少し休みたい時に日陰があるといいなと思う。
市　長	・　あの公園については避難所になる事を想定して作っているので、障害物はなるべく無くすようにしている。実際は色々な意見があるので、将来的には検討しなければならない。
参加者	・　こちらに越してきたのが３年くらい前で、来てから車の免許を取った。それまでは市内循環バスにお世話になったが、市内循環バスは終わる時間が早い。まちを活発化しようとするならば、飲み屋が活発化しないと駄目だと思う。代行を使うが、飲み代と同じくらい代行の料金を払うことになる。例えば、バスの本数は少なくても、金曜日と土曜日の夜に市内循環バスを走らせてみてはどうか。そうすればもっとお金を使うのではないか。道路が危ないので、例えば、自転車と歩行者が一緒に通行できるようにした方が車を運転する側としては安心である。自転車で学校に行く子がいるので、道路がクリーンになればいいなと思う。自転車の乗り方、自動車の乗り方の講習会があるといいのではないか。
市　長	・　道路交通法で歩道に自転車を走らせることは難しい。自転車側も、歩行者と車に対して安全な走り方をすべき。自転車道を作れればいいが。
参加者	・　東京では大々的に自転車道を作らなくても、車道と歩道の間に色を付け進行方向の線を引いて分かりやすくした道がある。
参加者	・　子どもを連れて出かけると、電車の中等で騒いでしまい思うようにいかない時、「大変だよね」と声をかけてくれる人がいると嬉しい。自分の子育てが終わってそういう人を見かけたら声をかけてあげたいと思う。思いやりや助け合いが大事だと思う。
市　長	・　今の話と関連するかもしれないが、匝瑳市の小中学校の子どもは元気よく笑顔で挨拶をすると褒められている。それだけ学校等で教育されているからである。そういう子ども達が大人になれば、声掛け運動や親切心も増長されていくと思うので、匝瑳市は子どもから大人まで知らない人にも挨拶をすることが出来るまちになるよう努力をしていきたい。
参加者	・　直接、市と関係あるかは分からないが、八日市場のお祭りはお神輿だけでなく、

	子どもが参加できるような子ども神輿や催しや企画があればいいなと思う。
市　長	・　よかっぺ祭りでは、子ども神輿が出ている。野栄のふれあい祭りは、小さな幼稚園児も担げるお神輿が出ている。市は、お祭りにも力を入れているので、子どもも楽しめるようなものを目指すように関係者へ伝える。
参加者	・　野焼きが気になっている。おじいさんやおばあさんの家がやっていると思うが、散歩するのに躊躇することがあるので、もう少しどうにかならないか。
市　長	・　酷いような所があれば、市に窓口があるので伝えていただきたい。
参加者	・　国際交流がしたくて、妊娠する前はずっと英会話サークルに行っていた。私には、それがストレス解消になっていた。子どもと一緒に外国の方と触れ合い、小さいうちから国際交流が出来たらいいのではないか。
参加者	・　子連れでも働ける場所がほしい。「ひまわり助産院」では、赤ちゃん連れで一緒に働ける環境がある。デイサービスがあり、おじいさんやおばあさんが赤ちゃんを見てくれているので、働きやすい環境が整っている。そういう所が増えてくれるといいなと思う。
市　長	・　託児の施設がそういう所にあればいいということではなく、子どもを抱きながら仕事をするというイメージか。
参加者	・　１～２時間でも働きたいと思うので、そういう時に赤ちゃんをおんぶしながら働ける環境があるといい。
参加者	・　おむつが沢山出るので、ゴミ袋代がもう少し安くなればいいなと思う。駅の周辺が賑やかになればいいなと思う。八日市場駅には「匝りの里」が出来たが、シャッターが閉まっている場所があるので勿体ない。飯倉駅は結構寂しい。飯倉はアパートが多く子育て世代が多いと思うので、ベビーカーで散歩に行けるようなお店等があれば、まちの活性化に繋がるのではないか。
市　長	・　ゴミは環境衛生組合で行っている。私がその組合長になっているので、安いに越したことは無いので努力させていただくが、運営を考えると中々難しい。都会と比べると高いが、近隣では安い方である。ゴミについては、袋ももう少し小さい方がいい等、ご意見を頂戴している。駅の活性化はまちの顔なので頑張りたいと思う。飯倉については、九十九里ホーム病院が元のエイトピアの敷地に４つの施設を作っている。こども園は完成しており、他に特別養護老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅、コミュニティの場として集まれる施設に農産物直売所を作る構想もある。飯倉駅の近所は今後活性化していくと思う。フォローは市でやることになっているので、頑張らせていただく。 **⑷　今後の予定について** ・次回　６月２２日（金）　場所：匝瑳市つどいの広場　たんぽぽ **５．閉会** **以　上**

第２次匝瑳市総合計画策定に係る市民懇談会（子育て世代対象）　結果概要

○開催日時　　平成３０年６月２２日（金）　１０時４５分～１１時４０分
○場　　所　　匝瑳市つどいの広場　たんぽぽ（旧八日市場幼稚園米倉分園）
○参 加 者　　１５名
○市出席者　　（特別職）太田市長
（事務局／企画課）大木課長、江波戸主査、小林主査
（秘書課）大木課長、畔蒜副主幹

発言者	内　　容
	１．開　会
	２．市長あいさつ
	３．自己紹介 ※市出席者紹介
	４．テーマ **⑴　匝瑳市にこんな取組があるといいなと思うこと。** 《参加者からの質問・意見》
参加者	・　子どもを気軽に連れて行けるレンタルスペース、日曜日も行けるような場所があればいいなと思う。子連れで行ける職業復帰支援、一緒に働ける場所があるといい。
市　長	・　前回も同じような意見をいただいた。
事務局	・　土曜日はこの場所があるが、日曜日はどうされているのか。
参加者	・　日曜日は成田にある施設に行っている。
事務局	・　近所にそういう場所があると子どもにもお母さんにも便利である。
参加者	・　私一人だと車の運転が得意じゃないので遠出が出来ない。有料でもいいので雨の日に子どもが遊べる場所があるといいなと思う。サンモールにある有料施設だと、３歳くらいになると遊び足りない部分が出てくる。
参加者	・　他の市ではあると思うが、「ファミリー・サポート・センター」、病児・病後児保育等、病気の子どもでなくても、怪我で保育園に行けない時にお母さんが働いていると困っているという話を聞いていたので、そういうものがあると助かると思う。 　イベントとして、小さい子ども達を集めてハイハイレースやヨチヨチレース等があるといいなと思う。
市　長	・　病児・病後児保育については、あかしあこども園で実施予定である。
参加者	・　「ファミリー・サポート・センター」があればいいなと思っている。私は中央

	地区だが、歩いて行ける公園が近くにないので、歩いて行ける場所に公園があればいいなと思う。
参加者	・　前回も参加させてもらったが、商店街でも色々なイベントをやっていると、あとから聞いたが、みんな知らないと思うし、告知されているのか分からない。若い人が商店街に行って、若い人が買える物があると大分変わると思う。商店街が凄く大事だと思うので、そこで人が沢山歩くような環境になるといいと思う。室内で遊べる場所について、以前私が住んでいた所にはログハウスがあり、地下室までトンネルで通れたり、遊具があったりした。そういうものがあるといいなと思った。
参加者	・　私は飯倉台に住んでいるが、公園の遊具について、滑り台が凄く高かったり、滑り台に登る所の足が抜けそうだったり、子どもが大きくなってからしか遊べない。もう少し小さい頃から遊べる遊具を増やしてほしい。
参加者	・　須賀地区に住んでいるが、歩いて行ける場所に公園や雨の日に子どもを連れて気軽に行けるような場所がない。飲食店も、子ども達を気軽に連れて行けるような場所があると、ママ達にとっては安心して交流を持てるのではないかと思う。
参加者	・　椿海地区に住んでいるが、レンタルスペースのようなものがあるといいなと思う。子ども連れや友達と外泊等、声を聞いていると遊ぶ所が無かったりするので、遊具を貸し出してくれるスペースがあるといいなと思う。
	⑵　匝瑳市を魅力あるまちにするために、「自分たちならこんなことができる。」と思うこと。
	《参加者からの質問・意見》
参加者	・　八日市場駅前には、かなり空き店舗があるので、そこを数人のグループで借りて曜日ごとに個人で使用したい。ピアスを作ったり、幼稚園や小学校で使う上履き入れ、手芸等、手先が器用な友達や得意なお母さん方もいる。一人でその店舗を借りるとなると負担が大きくなるので、数人のグループを作って借りるのはどうですか、という募集を募り、曜日で自分の作品等の販売が出来る場所として提供するのはどうか。
参加者	・　同じような意見だが、商店街にもシャッターを閉じているお店が沢山あるので、そういう所でハンドメイドのものを販売したり、ミシンが出来ない人は誰かが作ってくれたら凄く嬉しいと思うので、オーダーを受け付けたり出来るようなお店をやれたらいいなと思う。
参加者	・　今回息子が幼稚園に入園したが、私はミシンやハンドメイドが全く出来ないので、そういうものを気軽に買える場所があったら嬉しいなと思う。この辺りで子どもの物は、バースデイや西松屋しか買いに行ける所がない。
参加者	・　商店街の空き店舗の利用に関しては、私どもの法人の方で店舗を借り上げ、レンタルスペースとして活用しようとすることが可能。子育て支援の店舗利用とし

	て、お母様方のハンドメイド商品を日替わりで売り、お子様を一緒に連れて仕事に行けるということで、匝瑳市の活性化を図ることも可能と思う。参加いただけるようでしたら、連絡をいただければそのような活動を進めていきたいと思っている。
市　長	・　空き店舗の場合には、それなりの補助の対象になる事項も沢山あるので、是非やっていただきたいと思う。
事務局	・　何人かのお母様方から空き店舗の話があったが、子どもを連れてお母さん達が集まって手芸等を作りながら商売にもなるということで、最初のテーマの時にお子さん連れで仕事が出来るスペースがあったらいいなという話があったが、それと通じる部分があると思う。この中でもそういう所があったら是非やってみたいと考えている方はいるか。また、どういう物を作っているのか。
参加者	・　ピアスやヘアゴム、巾着、幼稚園や小学校で使うものを作っている。
事務局	・　そういう風に考えているお母さんは多いのか。
参加者	・　例えば、カラーズなど色々なイベントで出店している。お店を借りてやりたいかを聞いてみれば、やりたいと言ってくれるような人達はいる。毎日やるのは難しいが、好きな時にやれる感じであれば出来ると思う。
事務局	・　スペースをいくつかのグループで使いまわすやり方がいいということか。
参加者	・　家だと作業で部屋が散乱してしまうので、作業もしつつ販売も出来ると凄くいいと思う。
事務局	・　色々な方が集まれば魅力も膨らむ。
参加者	・　値段も安く出せるので、高校生も寄ってくれるのではないか。
事務局	・　活性化になる。
市　長	・　そのような手法、同じようにやる気のある方が集まれば、空き店舗を利用する条件もクリア出来るかもしれないので、相談してみて欲しい。
	⑶　将来、匝瑳市がこんなまちになっているといいなと思うこと。
	《参加者からの質問・意見》
参加者	・　須賀地区に住んでいる。車で走っていても林や雑草が生い茂っている所があり、車の車線に出ている所が多いので、そういう所の環境整備をして綺麗なまちになるといいなと思う。倒れそうな空き家もある。道路を歩くにも危険なことがあるので、そこも整備してほしい。
参加者	・　子育て支援が手厚くなればいいなと思うことは、チャイルドシートの購入には助成があるが、ジュニアシートの購入には助成がないのであるとうれしい。旭市はおむつ券がある。医療費無料というものはあるが、おむつ券等の助成があると助かる。
市　長	・　前回も同じ意見があった。
参加者	・　匝瑳市の現状として、子育て支援はかなり手厚いものだと思っている。匝瑳市

	内に本社を置く企業の社長さんを集め、企業として市にお住いの方へ何か子育て支援が出来るのか検討する機会があると良いのではないかと考えている。匝瑳市は若い企業家が沢山いる。企業が持っていて使っていない建物も沢山あるので、そちらを利用させてもらい、交流の場を作っていけば、雇用の活性化や、市が生き生きしてくるのではないか。
参加者	・　子ども達が将来大きくなって、匝瑳市に帰ってきてくれるようなまちにしたいと考えると、もう少し商業施設を充実して欲しいと思う。また、カーブミラーが少ない。付けて欲しい所に無いことが気になっている。
参加者	・　検診の年齢を引き下げ。また、初めて検診に行く時は抵抗があるので、検診を促してくれるようなことがあるとすんなり行けると思う。時間もかかるし、子どもを預けて１日病院に使うということは、預けられる環境にいる人はいいが、そういう環境にいない人は子どもと一緒に行けたりしないと、自分の事をないがしろにする事になってしまうので子どもの為にも良くないと思う。
参加者	・　国道や商店街等、人が歩いているまちにしたい。今は人が歩いていると覗かれるくらい珍しい感じだが、歩いていることが普通になるまちになったらいいなと思う。
参加者	・　商業施設の充実は、これから大事だと思う。特に小さい子どもを連れて買い物に行くとなると、例えばカスミに行き、その後、子どもの物を買いにバースデイに行くのは、道を挟んで行く事になる。なるべく１か所で買い物が出来る場所があると楽だと思う。
参加者	・　昨年匝瑳市に引っ越して来た。初めて住んだのがアパートで、そのアパートで防犯的に怖い思いをした。ナンバーの盗難や不審者が駐車場にいたりして、警察に相談し解決はした。街中を車で走ると、防犯パトロールの車を見かけるが、私が住んでいた所は細い道だったので、そこではパトロールは見かけなかった。もう少し人通りが少ない所もパトロールに入っていただきたい。街灯が少ない所もある。学生が自転車で走るような道もあるので、将来的に犯罪のないまちになるといいなと思う。
参加者	・　中央地区に住んでいる。子育てとは関係ないかもしれないが、匝瑳市には飯高檀林など沢山観光名所があると思うが、人が少ない。天神山公園は桜の時期になると綺麗に咲いているにも関わらず人けが少ないので、もう少し人を呼べてお金を落としてもらえるような仕組みを作り、観光バスで来てくれるような場所になるといいなと思う。飯高檀林もあるので、近くにカフェ等を作り、子どもを連れて遊びに行ける場所があってもいいと思う。お祭りも、年々人が少なくなっているので、外国人観光客が一緒に担げるお神輿等、もう少し人を呼べる何かが出来ればいいなと思う。
事務局	・　先程、子どもが帰ってくるまちというお話があった。今いる子ども達の年代はだいたい大学に行くと思う。通いの子もいるが、大学の近所に下宿をする人が多くなり、一度市から出る人が今後多くなると思う。今人口の減少が市の課題とし

	ても非常に大きな問題となっており、一度出た子ども達にどうしたら帰ってきてもらえるか、色々検討をしている。お母さんとして、どういうまちなら子どもがまた帰ってくると思うか、教えていただきたい。
参加者	・　働き場所や、交通機関の問題もあるかもしれない。大きなショッピングモールは子育ての上では大きいと思う。何回もチャイルドシートから降ろすのは面倒なので、１か所で買い物できる事。ショッピングモールには雨除けのある駐車場があると助かる。
参加者	・　意見ではないが、ちょうど長女が大学１年生で一人暮らしを始めたが、ゴールデンウィークに帰ってきた時に「こっちは何もない」と言っていた。私も実際に高校を卒業し都内で１２年間一人暮らしをしていた。匝瑳市生まれ匝瑳市育ちなので期待はしてなく、匝瑳市はこういうものだと思っていた。実際は地元で結婚して子どもを産んだが、子育ては匝瑳市で良かったと思う。若い子がまた帰ってきたいと思うには、キラキラしたショッピングモールのようなものがないと魅力には思わない。若い時は自然をアピールしても魅力に思わないと思う。
事務局	・　お母さん達は、今は匝瑳市を良いまちだと思っているということか。
参加者	・　のんびりして良いまちだと思っている。自分の世代だと生まれ育ったまちだと思うので、現状に不満は感じていない。
事務局	・　あとは、子どもにどうすれば帰ってきてもらえるかが大事。
参加者	・　神奈川県からこちらに来た。最初は若かったので、高速道路を下りた瞬間に「何ここ」と思ってしまったが、地元の友達に話を聞くと、「何でそんなに恵まれているの」と言われる。保育所に入れなくて、働きたくても働けないママも沢山いる。そう思うと、子どもを産んで育てる面では公園もあるし、良い環境だと親にも言われる。若い人に対しては魅力がないので、この環境のままだと都内に出たいと思う。
参加者	・　以前は千葉市に住んでいたが、匝瑳市は遊べる場所があるし、子育て支援も他市よりは手厚い。子どもは喘息があるので、開発されていない分住みやすく良いまちだと思う。
参加者	・　東京の方が就職したい企業が多いと思うので、大学に行って戻ってくるとなると、就職先として良い所があれば子どもも戻ってくると思う。
事務局	・　最近は都会から移住をしてくる人が多い。大企業に勤めていた方でも、仕事に疲れてこっちで休みたいという人が移住をしてきている。そういう人達の声を聞くと、住むには良い所だと言う人が多い。若い人を呼び戻すことをもっと考えなければならないと思った。
参加者	・　議題とは関係ないかもしれないが、この時期だと公園でたまに除草作業をしているが、野栄ふれあい公園を利用した時に、除草剤を撒いていたのに何も看板が出ていなくて、その後、お母さんと子ども達が普通に遊んでいた。その後、市役所に確認したら、やはり除草作業をしていたということだった。何も看板が出ていないのは怖いので、いつそのような作業をするのか、終わった後はどれくらい

	利用しない方がいいのか、そういう事が分かればいいなと思った。
市　長	・　担当課に伝える。
参加者	・　大学に行った子ども達を呼び戻すということだが、大学に行ってある程度の学習を修めた子ども達は活躍しなければ大学に行った意味がない。であれば、夢を叶えるために市に戻ってきてもらい、会社を起こしやすい、やりたいことを市がバックアップする仕組みづくりがあると良いと思う。地元に戻れば住み慣れたまちで何か自分の夢が叶えられると思ってもらい、若い人達に活躍の場を与えることにより、お店を出してもらう。そのお店が段々周りと連携をとっていけば、地域の活性化につながると思う。大きな複合ショッピングモールを誘致するのは不可能に近いと思うので。
事務局	・　情報の受け手としているお母さんやお父さんは、何で情報を得ているのか教えていただきたい。例えばＳＮＳだと何を使っているのか等。
参加者	・　市のことであれば、実際ここに来るのが一番いいと思う。子どもの怪我のこと等も周りのお母さんが教えてくれるので。
事務局	・　市のホームページは見ているか。
参加者	・　電話をかけるために見たことはある。
事務局	・　公式ツイッターを用意して発信しているが、それはあまり見ないか。
参加者	・　知らなかった。
事務局	・　広報紙、ホームページ、ツイッターが主要なツールだが、あまり見ないか。
参加者	・　あまり見ていない。ここに来ているママ達は、つどいの広場で情報を得ている。
事務局	・　広報紙も新聞折り込みで入れているが自宅にはないか。
参加者	・　新聞はとっていないが、ここに来たら持って帰っている。
	５．閉会
	以　　上

第２次匝瑳市総合計画策定に係る市民懇談会概要
高校生との「まちづくり座談会」

１　日　時　　平成３０年９月２５日（火）１５時４５分～１７時１５分
２　場　所　　匝瑳市役所　市長公室
３　参加者　　千葉県立匝瑳高等学校生徒及び敬愛大学八日市場高等学校生徒
　　１１人
４　市職員　　市長、秘書課長、企画課長、秘書課広報広聴班統括、企画課まちづくり戦略室長、企画課企画調整班統括、秘書課職員、企画課職員
５　概　要
（１）開会
（２）市長あいさつ
（３）自己紹介
（４）座談会（意見交換会）
（５）市長御礼あいさつ
（６）閉会
６　座談会の概要

テーマ１　「匝瑳市について思うこととして、①匝瑳市の好きなところは何ですか？」

進行（企画課長）

皆さんから事前に頂いている市民懇談会意見シートに沿って進めたい。

最初に「匝瑳市について思うこと」として、「①匝瑳市の好きなところは何ですか？」というテーマについて、意見を伺う。

市長

あらかじめ、アンケートを取らせていただいた。その中で匝瑳市の好きなところということで皆さんの意見を見ると、「自然が豊か」、「祭りなどの地域行事」といった内容の意見が多く見受けられた。できれば全員の方に質問をさせていただき、場合によっては２回質問させていただきたい。

最初に、敬愛大学八日市場高校の青野さん、銚子市出身ということだが、「人が優しい」というのは、どのような出会いがあったのか、匝瑳市民が優しいと感じたのか、聞かせていただきたい。

敬愛大学八日市場高校・青野（※敬称略。以下同じ）

学校まで歩いている間に、車が譲ってくれたり、駅員さんが優しく接してくれる。

市長

初対面の市外の人に、「匝瑳市とはどのようなまちですか」と聞かれる。その時は必ず「人柄が良いところ、空気がおいしく、自然が豊か、植木産業を含めた農業都市」だと言うようにしている。人柄が良いところを見ていただいてありがたいと思う。他の皆さんは匝瑳市民の人柄ということで、良さに触れたという経験はあるか。私は、

市内の小・中学校の児童生徒があいさつが良いと感じるが、皆さんはどうだろうか。小学校の児童とは会わないだろうか。

次に、匝瑳高校の菊地さんから「とても安全で安心して住めるところ」だという意見を伺っているが、八日市場第二中学校出身の地元の人ということで、小さい頃から匝瑳市は安全・安心だと思っていたのか、それとも何か出来事があったのか。

匝瑳高校・菊地

特に出来事はないが、不審者に会ったこともなく、事件もなく、安心して暮らせたので、書いた。

市長

警察などの資料によると、匝瑳市は県内でも治安が良いということで、事故や刑事事件が少なく、防犯的なこともかなり進んでいる。他に皆さんの中で、匝瑳市は安全・安心だということで意見はあるか。市外から通学している人で、地元と比較して何かあるか。今、選挙に出る人はマニフェスト（選挙公約）として、市民に訴える。私もマニフェストの、３つの基本方針の中で、「安心・安全のまちづくり」を掲げている。その達成のためにも、若い人の意見を聞きながら安心・安全に努めていきたいと思っている。

テーマ１　「匝瑳市について思うこととして、②匝瑳市に足りないところは何ですか？」

進行

２人の方から意見を聞いたが、このテーマについては以上とする。次に、匝瑳市について思うこととして、「②匝瑳市に足りないところは何ですか？」というテーマについて意見を伺う。

市長

皆さんからの意見で「レジャー施設が少ない」、「交通の便が良くない」、「公園や道路の整備をしてほしい」という意見がある。

まず、敬愛大学八日市場高校の伊東さんに伺いたいが、レジャー施設が少なく、交通の便があまり良くないという意見だが、レジャー施設とはどのような施設か。

敬愛大学八日市場高校・伊東

カインズホームのような所だったり、食べる所は匝瑳高校（駅の西側）の方に集中していて、旭・干潟方面に少ない。私は電車通学をしているが、友人が多古から来ていて、帰りのバスが１７時３０分で最終なので、市内循環バスがもう少し遅くまであってほしいという意見を友人から聞いた。交通の便ということでバスが少ないと感じる。

市長

カインズホームのような商業施設は確かに市内では少ないかもしれない。交通の便は総武本線は１時間に１本程度であり、もう少しあった方が良いと思う。昔は多古までバスの便は良く、３０分おきにあった。人口減少、自家用車の利用でバス会社の経

営が難しく、便数が減っていった。佐原方面に行くバスもあったが今はない。そういったこともあり、市内では循環バスを運行しているが、ルート・時間帯は市民を１００％満足させることは難しいと感じている。多古方面へ行く遅い時間のバスがあった方が良いという意見のほかにバスに関する意見はあるか。
（特に発言なし）

市長

次に、匝瑳高校の矢部さん、「観光資源が少ないところ」、「観光客が集まらない」とある。今日はパンフレットを資料として用意したが、この中では観光資源は多くはない中で、飯高檀林跡、松山庭園美術館、ふれあいパーク八日市場、祭りといった行事、特に中央地区の八重垣神社祇園祭をＰＲしているが、もっと観光面をこうした方が良いといったことがあれば意見をお願いしたい。

匝瑳高校・矢部

野菜がおいしいので、レストランでその野菜を使った料理を提供してはどうか。

市長

産物を活かした観光を含めた中で、集客するということか。ふれあいパークには行ったことがあるだろうか。野菜を販売するだけでなく、ふれあいパークは地元の新鮮な野菜を供給することで都会の方からは魅力的らしい。新鮮で、おいしく、安いということで、そういった野菜を使って、レストランでということである。

匝瑳高校・矢部

海の方で、海鮮のおいしい所をＰＲしてはどうか。

市長

パンフレットの中に海鮮の紹介は入っているのか。

進行

「海めし街道」として紹介をしている。

市長

浜通りの食堂を紹介している。もっと海産物を使った店に力を入れた方が良いのであれば、事業者と相談して行いたい。海岸線の場合は、現在、海水浴場がなく、寂しい。なかなか海水浴場は復活するのは難しいと思う。サーファーが多いので、その方々に食堂やレストランを利用してもらえば良い。他に意見があるだろうか。銚子から通学している人はどうだろうか。銚子は観光資源が豊富にあるので、もし、意見が何かあったら後で教えてほしい。

テーマ２　「匝瑳市に将来住みたい・戻ってきたいと思いますか？として、①住みたい・戻ってきたいと思う人」

進行

「匝瑳市に将来住みたい・戻ってきたいと思いますか？」として、「①住みたい・戻ってきたいと思う人」についてはその理由を伺う。

市長

意見の中で、「都会より物価が安い」、「空気が澄んでいる」、「地元が好き」、「なじみがあるから安心」、「田舎の方が好き」、先ほど出た意見で、「人が親切」という意見があった。

匝瑳高校の布施さんに伺いたい。「先生になって自分のお世話になった母校で働きたいから。匝瑳市全域に１度は行ってみたいから。」とあるが、都会にない良さを何か感じるか。

匝瑳高校・布施

豊栄地区に住んでいるが、海岸の方の地区に行ったことがない。市内全域には行ったことがなく、パンフレット内には見たことがない景色が多い。今後も匝瑳市に住んでいれば、自動車免許を取得し、交通手段が増えれば、いろいろな所に行けるので、全域に行ってみたいので書いた。

市長

今まで地元にいて、行って良かった所はあるか。

匝瑳高校・布施

祖父母の家が山に近く、山に行くと空気が違う。畑も山に近いので、自分が森にいる感覚がすごく好き。山が好きだが、海にも行ってみたい。

市長

市内を回って、目で確かめて理解したいということである。自動車免許はまだ取得できないと思うが、市内循環バスは１日４００円で乗り放題なので、循環バスを利用して市内１周をしてはどうか。循環バスには乗ったことがあるか。

匝瑳高校・布施

まだない。友人が通学に使っているので、使いやすいとは思っているが、今後使ってみたいと思う。

市長

乗車は１回２００円、循環バスを使って市内めぐりをしたら良いのではないか。それと先生になりたいとあるが、専攻は何か決まっているのか。

匝瑳高校・布施

小学校か中学校の先生になりたい。この間、小学生と通学合宿をして、小学生の対応が明るく、なじみやすく、小学生と関わっていきたいという気持ちがあり、また、中学校時代の部活の先生がすごく親身であったため、中学校の先生へのあこがれもあって迷っている。

市長

小学校か中学校の先生になるかで迷っているということである。どちらになっても大変な職業なので、しっかり目標達成に向け、がんばっていただきたい。通学合宿との発言があったが、あとでまた伺いたい。

それでは匝瑳高校の伊集さん、「都会より田舎の方が好きだから。静かだから」、と答えているが、風土が良いのか、都会より田舎の方が良いのか、どういう所が好きなのか。

匝瑳高校・伊集

都会で暮らしたことはないが、田舎の方の人間関係とかが良いので田舎の方が良いと感じる。

市長

千葉とか東京には行ったことがないか。

匝瑳高校・伊集

行ったことはある。

市長

都会はどういった所がなじまないのか。この中では都会の方が良いという人が多いのではないか。都会の方が良い人はどれくらいいるのか。我々の立場からすると、「田舎の方が良い」と言ってくれる人がありがたいし、そういう人が増えるように頑張らなければいけないと思う。そういうことで都会より田舎の方が良い人も多いということで安心した。住みよい、安全な、人柄の良い農村都市を創っていくよう頑張りたい。

テーマ２　「匝瑳市に将来住みたい・戻ってきたいと思いますか？②住みたくない・戻りたくないと思う人」

進行

次に、都会に魅力を感じる人の意見を伺いたい。「匝瑳市に将来住みたい・戻ってきたいと思いますか？」として、「②住みたくない・戻りたくないと思うという人」にその理由は何ですかというテーマで意見を伺う。

市長

頂いた意見を見ると、「交通に関して不便」、「就職先が少ない」という意見があり、戻りたくないと思う方がいると感じるが、敬愛大学八日市場高校の江波戸さんは「働くことができる企業の数が少ないから」とあるが、将来就きたいと思う職業は具体的に決まっているのか。

敬愛大学八日市場高校・江波戸

まだ、自分自身何になりたいとか、やってみたいとかは決まっていないが、匝瑳市には企業の数もそうだし、大きい会社が多いとは言えない。南の方は田畑が多く農家は多いが、企業が少ない。

市長

匝瑳市の人口減少の要因として、「働く場所がない」ということが挙げられている。若い世代の働く場所がたくさんあれば、人口減少にも歯止めがかかるが、企業が少ないという課題がある。行政としても企業誘致に力を注がなければならないと思っている。皆さんが地元で就職できるよう頑張りたい。

匝瑳高校の川口さんに伺うが「住みたいと思う魅力がないから」とあるが、「市がこうなれば良い」とか、戻ってくるには何があれば良いと思うか。

匝瑳高校・川口

何か１つ有名なものがあれば、例えば他の市から知ってもらう観光資源であったり、

“これがあるから残る”といったものがあればと思う。先ほど出たレジャー施設、いわゆる人が入ってくる、“人が来たいなと思う”、そういうものがあれば、違うと思う。魅力があれば病院でも良いと思う。

市長

先ほど人が集まるということで、レストランや食堂について意見があったが、それも１つの方法だと思う。若い人が流れてくるような、施設や場所を増やすということがなければ魅力がない。

テーマ２　「匝瑳市に将来住みたい・戻ってきたいと思いますか？として③住みたくない・戻りたくないと思う人は、数年後、どんな匝瑳市になっていれば、もどりたいと思いますか？」

進行

「匝瑳市に将来住みたい・戻ってきたいと思いますか？」として、「③住みたくない、戻りたくない」と思う人は、数年後、「どんな匝瑳市になっていれば、戻りたいと思いますか？」というテーマで意見をお聞かせ願いたい。

市長

戻ってきてもらうためには、“どういう市であれば戻ってくるのか”ということで匝瑳市の課題は先ほどから出ているが、「交通の便が良くなっている」、「アミューズメント施設が増えている」、「就職先が増えている」との意見がある。敬愛大学八日市場高校の山川さんに伺う。「総武本線の運行本数を増やし、また駅周辺にはアミューズメント施設を増やせば匝瑳市に戻りたいと思う」という意見だが、具体的に説明をお願いしたい。

敬愛大学八日市場高校・山川

電車で通勤する人には運行本数が少ないと感じる。アミューズメント施設については、中高生は遊びがメインなので、旭駅の近くはイオン、映画館、ゲームセンターもあるが、八日市場駅の近くにはない。若い人たちが来るような施設があればと思う。

簡単に言えば、ボーリング場とかがあれば良いと思う。駅周辺に遊ぶ所が少ない。

市長

時間を過ごす場所がないということか。敬愛大学八日市場高校の家田さんは、「電車の本数が少ない」ということだが、今、電車は１時間に１本くらいだが、どのくらいあれば良いと考えるか。３０分に１本くらいか。

敬愛大学八日市場高校・家田

３０分に１本くらいあれば良いと思う。

市長

朝の通学時には足りていると思う。今朝、７時３０分頃に踏切で電車の通過を待っていたら、電車の中に学生が乗っていた。いつもこのくらいの人が乗っていれば良いなと感じた。通勤・通学の時間帯は、その時間に合わせた形で電車を利用すると思うが、もっとあいだにあった方が良いということか。

敬愛大学八日市場高校・家田

そういうことである。

市長

普段は、同じ時間帯の電車利用だと思うが、何かあって早く帰るとか、部活動で遅くなった場合とか、１時間待つ場合もあるだろうから、３０分に１本ということか。総武本線は複線になっておらず、銚子から佐倉までの間が単線であり、通勤通学時間帯の電車を増やす、特急を増やすとかを千葉県ＪＲ線複線化等促進期成同盟があり、県でまとめてＪＲへ要望している。しかし、ＪＲも厳しいということで、今の交通事情を考えると、複線や本数を増やすというのは厳しい。総武本線は乗降客が多いが、外房・内房線は本数が減っている。引き続き陳情・請願を続けていきたい。

テーマ３　「匝瑳市を若者にとって魅力あるまちにするために必要なこととして、①自分たちならこんなことができる！」

進行

次に、「匝瑳市を若者にとって魅力あるまちにするために必要なこと」として、「①自分たちならこんなことができる！」という提案はあるか。

市長

皆さんから頂いた意見では、「イベントを主催する」、「ごみ拾いやあいさつによりまちを明るくする」、「市の魅力を広める広報活動」、「ボランティア活動」とある。

敬愛大学八日市場高校の馬場さんに伺う。「匝瑳市の魅力をビラなどを使って伝える」とあるが、ビラとはどういったものか。

敬愛大学八日市場高校・馬場

例えば、匝瑳市が誇れる所をビラにして各駅に掲示したりしたら良いのではないか。

市長

今日配付したパンフレットは、駅や高速道路のサービスエリアに置いている。あまり今までに見たことはなかったということである。もっともっと多くの人に見て知ってもらえるような方策を立てて、匝瑳市を知ってもらったり、興味がわくようなビラを作って各駅やいろいろな人の集まる所で配布をするということか。祭りのビラは千葉県中の駅に置いてある。あまり見たことはないだろうか。やはり配っても見てもらわないといけない、魅力あるビラが必要だということだろうか。

また、“自分たちでできること”として通学合宿が挙げられている。匝瑳市の通学合宿は過去に表彰された実績もある。匝瑳高校の布施さんは通学合宿の経験はあるのか。

匝瑳高校・布施

今年参加した。

市長

ボランティアで行ったのか、通学参加者の児童として行ったことはあるか。

匝瑳高校・布施

児童として参加経験はない。高校生になってスタッフとして参加した。

市長

通学合宿は小学校５・６年生を対象としているが、どれくらいの期間か。

匝瑳高校・布施

７泊８日である。

市長

高校生という立場でボランティアをやってみたら、良かったということであるが、もっと高校生のボランティア活動があれば積極的に参加できるので、ボランティア活動を増やした方が良いという意見か。

匝瑳高校・布施

そうである。

市長

他にボランティアとしての経験はあるか。

匝瑳高校・布施

友人がボーイスカウトに参加している。ガールスカウトもあるようで、夏に駅前で行われた平和式典の時に他の団体も並んでいた。他にもボランティア活動が知らない所で行われているのを知って、もっと知れ渡れば良いなと思った。

市長

駅前の「平和の像に千羽鶴を捧げるセレモニー」には、八日市場第一中、八日市場第二中、野栄中から１０名程度来てもらっている。ボランティアで参加している方もいる。参加している方を見て、自分も参加したいと思った友人がいるということか。他にこういうボランティアに参加したいとか、あれば良いというものはあるか。

敬愛大学八日市場高校・青野

私は銚子で国際ボランティアに参加したことがある。有名なアメリカの大学の合唱団が来て、保育園や幼稚園、市役所を回り、歌ってもらうというのに参加した。海外の方が来たときには学生が案内をしたり、通訳もできる。匝瑳市のことを知ってもらえるので、国際ボランティアもあった方が良いのではないか。

市長

これからは国際色も高まるので、重要かもしれない。

テーマ３　「匝瑳市を若者にとって魅力あるまちにするために必要なこととして、②自分が住む地域でこんなことができる！」

進行

次に「匝瑳市を若者にとって魅力あるまちにするために必要なこと」として、「②自分が住む地域でこんなことができる！」という提案はあるか伺う。

市長

地域に視点を置くと、ごみ拾い、交流会の開催という意見がある。敬愛大学八日市場高校の山川さんに伺うが「地元の大人と交流会を開き、匝瑳市をより活気がある市

にするため、どうすれば良いのか意見交換をする」との意見であるが、地元で意見交換を行ったことはあるのか。

敬愛大学八日市場高校・山川

行ったことはない。

市長

地元の大人と交流会を開いてはどうかとの意見であるが、交流会とはどのようなものか。

敬愛大学八日市場高校・山川

幅広い世代を超えて話を聞いて、「どうしたら匝瑳市は良くなるか」を意見交換すれば魅力のある市になるのではないか。

市長

テーマを、「匝瑳市はどうしたら良くなるか」にして、若い世代と大人で交流をするということか。

敬愛大学八日市場高校・山川

はい。

市長

そういう交流ができれば若い人も幅が広がるし、人間的にも大きくなる。大人の人も“若者はこういうことを考えている”というヒントになり、発展していく。

敬愛大学八日市場高校の家田さんは「ＳＮＳなどを活用したまちづくり。自分が住む地域の魅力などをＳＮＳ等を使って拡散し広める」という意見だが、出身地の銚子ではＳＮＳを市でやっているのか。

敬愛大学八日市場高校・家田

やっていないと思う。

市長

今の時代に合ったことを先取りするとの意見ということで良いのか。ＳＮＳの構成について、何か個人的にこういった形でといった構想があるか。

敬愛大学八日市場高校・家田

高校生だとツイッターやインスタグラムをやっている人がたくさんいるので、良い所を発信していったら魅力あるまちになるのではないか。

市長

若者視点で、ＳＮＳで興味を引いていくような構成が良い。

テーマ３　「匝瑳市を若者にとって魅力あるまちにするために必要なこととして　③市（行政）にやってもらいたいこと」

進行

「匝瑳市を若者にとって魅力あるまちにするために必要なこと」として「③市（行政）にやってもらいたいこと」はあるか伺う。

市長

本日参加の高校生は、電車通学の人が多いためか、「八日市場駅を快適にしてほしい」、「電車やバスの本数を増やす」、「商店街を盛り上げる」などの意見がある。匝瑳高校の伊集さんは「子育てしやすい施設をつくる。若者が働きやすい環境をつくる。そうしたら、若者も来るかもしれない。」という意見だが、子育てしやすい施設とは具体的にはどういう施設なのか。

匝瑳高校・伊集

幼稚園や保育園である。

市長

市議会からも子育てに対する意見・要望がたくさん出ている。人口減少に歯止めをかけるには、新しい若い世代に匝瑳市に来てもらいたい。そのためには、どうしても子育て面に力を入れ、若い夫婦に根付いてほしい。全国どこでも力を入れて取り組んでいる。保育園・幼稚園を充実させる。企業誘致の意見もあるが、働きやすい企業は何かイメージはあるのか。時間外労働がないとか、人間関係がうまくいく企業、あるいはこういう企業というのはあるだろうか。匝瑳高校の矢部さんの意見は「市のＰＲ動画を作り直す」とあるが、市のホームページなどを見た上でのものか。

匝瑳高校・矢部

ユーチューブを見た。動画では、確かに施設の紹介とかは行っているが、言葉がない。人が話したりしていないので、印象に残らないという感じがした。

市長

通り一遍のストーリーが流れる感じということか。

匝瑳高校・矢部

例えば、大分県別府市がおもしろい。楽しく見られて、市の良い所をＰＲできると見てくれる人が増える。見た人が来たいと思ってくれる。

市長

ホームページと観光協会のもの、両方を見たのか。

匝瑳高校・矢部

両方見た。

市長

少し魅力に欠ける、もっと趣向を凝らして印象に残るような動画にした方が関心を持ってもらえるのではないかという意見だと思う。動画やＳＮＳの話が出たが他に皆さんの中でもっとこうした方が良いという意見があれば願いたい。

敬愛大学八日市場高校・青野

「ゆるキャラ」がいい案だと思う。ゆるキャラは、地域や場所の代表になり、すごくＰＲができる。小中学校の児童生徒たちにアイデアを出してもらうと良い案が出ると思う。ゆるキャラだけで考えるより、ゆるキャラからＳＮＳ、動画にしていけば良い。

市長

“あっぴいちゃん”は知っているか。匝瑳市の赤ピーマンのキャラクターだが、あ

まり見たことはないか。ソーサマンは知っているか。ソーサマンは子どもには人気がある。イベントでがんばってやっている。趣向を凝らし模索しながら頑張っていく。また、良いアイデアがあれば頂戴したい。あっぴいちゃんも当時の高校生の中からアイデアを頂いて赤ピーマンの妖精を作った。東金市のゆるキャラも高校生が作った。若い視点でゆるキャラを作るというのは良いことである。その時は皆さんの知恵を借りたい。

テーマ４　「その他自由意見」

進行

最後に自由意見を伺う。

市長

最後なので、思っていることをすべて言ってほしい。昨年開催時には、信号機の設置や、アミューズメント施設を増やす、という意見を頂いた。敬愛大学八日市場高校の江波戸さんは、「中学生などを交えて、色々な年代層と意見交換ができれば良い」という意見があったが、具体的にどういった意見交換会をイメージしているのか。

敬愛大学八日市場高校・江波戸

今日のような座談会では、高校生だけでなく、中学生とかいろいろな年代の人を交えて、匝瑳市のここが良いとか、改善した方が良いという意見を比較したりするのが良いのではないか。

市長

「色々な年代層」とあるが、年齢幅は、何歳から何歳までや、こういう年代が一番重要だと思うか。

敬愛大学八日市場高校・江波戸

中学生・高校生、２０歳代から４０歳代、５０歳代以上の３～４階層に聞くと色々な意見が聞けるのではないかと思う。

市長

いろいろな意見を聞き、それぞれの年代の人を相互理解し、輪を広げ、強くなるというイメージだろうか。その中で、もしそういう年代で意見交換をする場合、どういうテーマにすれば、盛り上がると思うか。何か案はあるか。

敬愛大学八日市場高校・江波戸

匝瑳市をどう良くしていくか、行事を増やす、というテーマなら良いと思う。

市長

第２次匝瑳市総合計画を策定するために、今日は高校生との座談会、先日は区長会との座談会を開催した。私も行事に参加するのが好きで率先して参加して、色々な意見を聞いている。色々な年代層の人が集まって１つのテーマに向かい、議論をして匝瑳市を高めていくことで、計画の中に取り込み取り組んでいきたいと思う。計画を策定するにあたり、１６歳以上の２，０００人にアンケートを取っている。今日の意見は、計画策定の中で活かしていきたいと思う。

ありがとうございました。

進行

　まだまだ皆さんからの意見を伺いたいところであるが、以上をもって意見交換会を終了とする。

以上

第２次匝瑳市総合計画策定に係る市民懇談会（団体対象）　結果概要

○開催日時　平成３０年１１月１６日（金）　１９時００分～２０時３０分
○場　　所　市民ふれあいセンター２階第３会議室
○参 加 者　古作和英（匝瑳市体育協会理事長）、鈴木正夫（匝瑳市スポーツ推進委員連絡協議会副会長）、古作照夫（八日市場ライオンズクラブ会長）、小関和雄（匝瑳市校長会会長）、押尾悦子（匝瑳市社会教育委員会議議長）、石橋春雄（匝瑳市野栄文化会会長）、熊切達雄（史跡飯高檀林跡を守る会会長）
○市出席者　太田安規市長、大木寛幸企画課長、大木進一秘書課長、畔蒜稔行秘書課副主幹、江波戸英樹企画課主査、小林直己企画課主査

発言者	内　　容
	１．開　会
	２．市長あいさつ
	３．自己紹介
	４．意見交換 **⑴　テーマ１** **匝瑳市の理想の将来像について。** **今後、匝瑳市がどんなまちであって欲しいとお考えですか。** **⑵　テーマ２** **テーマ１のまちになるために必要なこと。** **≪参加者からの質問・意見≫**
体育協会	・　前回の計画を見ると将来像は、市章（３色）を元にしているようだが、今回も市章にあった将来像が良いのではないか。 匝瑳市は、海・平野・台地の３つの地形からなっているので、うまく合致するような将来像を掲げたら良いのでは。
事務局	・　資料でご案内のとおり、３色を使っている。海の青、自然の緑、人のオレンジをイメージし、色分けして市章を作っている。頂いた御意見を参考にしたいと思う。 土地の利用状況について、匝瑳市は里山から海岸線まで様々な状況で土地の利用がされている。中でも農業は基幹産業として、植木は日本一と自負している。こうした状況の中で、将来都市像を設定していきたいと思う。
市長	・　団体から見た都市像もお話しいただければ幸いである。
スポーツ推進委員	・　高齢者はこれからますます増えると思うが、ふれあいウォークを実施していて遠くは鎌倉から、今年の秋は銚子で、募集をかけている。現状として、若い人の

	応募が少ない。60 歳代でまだ若い。参加者はだいたい同じメンバーとなっているので、多くの方に参加していただければと思う。 　また、グラウンドゴルフなど、高齢者がもっと参加できる色々な催し物をできたらと思う。高齢者も体を動かせば、健康でいられると思うので、そういうことができる環境になっていくように行政と協力していきたいと思う。
市長	・　ふれあいウォークは、近郊で開催されているようだが、市内ではどうか。
スポーツ推進委員	・　以前試みたことがあるが、市内での開催だとどうしても皆さん見飽きてしまっているためか応募人数が少ない。鎌倉など遠方に出かける方が、すぐに応募が埋まる。匝りの里を出発するイベントも少なかった印象がある。ただ、離れたところばかりではなく、近場でできる形が良いのかなとは思う。イベントをするに当たっては、コースの選定や下見なども大変。開催は年に 2 回で、5 月下旬と 11 月上旬に行っている。
市長	・　市長への手紙で、いつもすぐ定員になるし、同じ人しか参加できないからどうにかして欲しいといった意見が届いたことがある。
スポーツ推進委員	・　イベントを気にしている人は、広報掲載のタイミングを心得ているため、どうしてもそのような現象が起きてしまう。
社会教育委員会議	・　東総歩こう会の会長をしている。11 月に開催しているが、車や電信柱の無いような里山で人の行かない場所を探して選んでいる。里山の匝瑳市にこんなところがあったのかという場所を狙って案内すると大変喜ばれるので、コースの選定が大事かなと思う。鎌倉などは名所なので人が集まるのは目に見えているが、匝瑳市を知ってもらうために、そういうところも歩くことで感動があるのではないか。また、目玉商品があると人が集まる。他の地域から来た人に、匝瑳市にはこういうところがあると分かってもらえる。口コミで参加を呼びかけているので天候さえ良ければ多くの人が参加してくれると思っている。広報紙には記事の都合上で載せてもらえないこともある。
体育協会	・　若い世代も昔は行事を行うとなれば率先して参加してくれていたが、現在は遊びを優先していると感じている。参加意欲が停滞していて、体育協会も参加者が高齢化している。「若い世代を捉えるイベント」が必要ではないか。また、学校の生徒数が減少していて、部活の団体競技も学校単位では出られず、連合で出るようになっている。スポーツも育成に重点を置かないと今後の体育団体の維持も頭が痛いところで、低年齢層の確保育成が色々な面で重要。中学校の先生も部活の時間問題など厳しくなっていたりするので、土日は先生の時間を解放するという意味でも地域総合型スポーツクラブなど、学校と社会の連携を図って学社連携、行政も入って強化しなければと思う。
事務局	・　健康づくりと合わせて里山の魅力の話もあった。里山と飯高檀林跡を守る会の関係について説明いただきたい。
檀林跡を守る会	・　飯高檀林跡は県の指定史跡であり、飯高寺の講堂・鼓楼・鐘楼・総門は国指定の重要文化財である。文化財の有効活用ということで、近隣の小学生を対象にし

	て、夏休みに２泊３日の団体生活の場（寺子屋）として提供している。今年は60 人定員のところ 80 人ほどの応募があった。親元を離れての生活なので、中には小学校１年生もいて泣いたりする子もいるが、講堂の掃除や勉強など団体生活を通して、開講式と閉講式の様子を見ると、一回り成長したように見える。そのような場は、文化財の有効活用として良いことなのかなと思って毎年応援している。 　また、檀林の一部分を「守る会」で清掃している。観光客も増え、映画やドラマのロケ地としても活用してもらっている。九州から、出演者のファンがロケ地を見たいと訪れることもあり、１年程は継続して賑わっていた。観光客の人が気持ち良く帰ってもらえるように清掃している。ウォーキングにも適しているのではないかと思うし、ある種パワースポット的なところもあるかなとも思う。観光はもちろん、里山を歩いたり、訪問してもらうだけでも森林浴ができると思う。多くの方に来てもらえるよう私達も普段から頑張っている。観光などそういう面で協力できれば良いのかなと思う。
事務局	・　石岡から結婚相談事業の関連で視察が来た。飯高檀林跡は市最大の観光スポットとしてＰＲしているし、市の方でも十分に活用させてもらいたいと思っている。
体育協会	・　ロケ地の関係で千葉県フィルムコミッションへの登録は、匝瑳市ではいくつあるのか。
事務局	・　手元に資料が無い。
体育協会	・　飯高檀林はテレビでも結構使われているのは分かるが、匝瑳市だということは分からない。植木も登録した方が良いのでは。
事務局	・　確認しておく。（千葉県フィルムコミッションへの登録は３件（飯高檀林跡、天神の森、ふれあいパーク八日市場）であった。）
ライオンズクラブ	・　青少年の交流ということで、郷土に愛着を持ってもらえるかなということで参考になればと思って活動内容を話す。現在、ボーイスカウト、発明クラブ、高校生を対象に海外派遣、国際平和ポスターの応募など、少しでも子ども達の交流ができればと思い実施している。スポーツ面ではミニバスケットの大会を開催している。現在、準備しているのは他市を交えてのスポーツ少年団の交流である。そのような交流から地域に愛着を持ってもらえるように活動している。 　私としては、匝りの里を活用して匝瑳市をアピールしてはどうかと思っている。駅前は匝瑳市の玄関なので、匝りの里を拡大し郷土資料館を作り、匝瑳市の魅力をもっと発信してはどうか。
市長	・　そのような構想で匝りの里を作ったが、まだまだ力が足らないということだと思う。
体育協会	・　将来像の関係だが、新しい年号のタイミングで第２次総合計画もスタートするので、ガラッと変えるという考え方もあるのではないか。
ライオン	・　台風や大雨の予報があると、市では「土のうを配布しています。」というアナ

ズクラブ	ウンスがあり、逆に不安になる。
秘書課長	・　市ではホームページで情報発信をしているが、中々情報にたどり着かないという意見を聞く。現在、市ホームページのリニューアル作業を進めており、来年の３月末には新たなホームページを提供できる。匝瑳市は情報発信が下手だという意見もあるので、特設ページを作るなどして、情報発信を強化していきたいと思っている。
ライオンズクラブ	・　旅行した際、訪問したまちが「こういう歴史があってこういう産業がある」など分かるような仕組みは良いと思う。市もアピールポイントがあるので、もっと大々的に発信したら良いと思う。
校長会	・　今日、市内で大きな研究会があり、市のＰＲの話があり、植木が日本一、トウキョウサンショウウオ、イシガメ、飯高檀林跡などいくつも匝瑳市には財産があるなと改めて思った。初めて知ったのではなく、以前から知ってはいたが、足を運んでいなかったり、実物を見ていないと思った。この会議で美しい里山が一つのキーワードとして出ている。以前赴任していた学校の裏から見た景色は、電線が一つも無く、来客を受ける際にはその景色を見てもらい、『電信柱が一本も無いのはディズニーランドかうちぐらい』とよく話をしていた。今日、八日市場小学校から八日市場第二中学校まで歩いてみて、その景色が非常に懐かしく感じ、実際歩いてみないと良さはわからないなと思った。 　また、広報戦略はすごく大事だと思っている。いすみ鉄道の社長の話で何もないを売り文句にして沢山のお客さんが来ている。そこで、懐かしい里山をアピールすると良いのではないか。美しい里山と謳うのであれば、里山の整備も必要だと思う。あと、大学で広報を勉強した人が言うには、のぼり旗は意外と逆効果とのこと。
事務局	・　のぼり旗が逆効果ということについて、もう少し詳細を聞かせてほしい。
校長会	・　景色に似合わない色使いや自然を見に来たのに人工物であるということで逆効果になるのではないか。
事務局	・　ＰＲ戦略としては、匝瑳が難読ということを逆手にとってのＰＲは新聞でも取り上げてもらったり、難読で西の横綱の宍粟市とタッグを組むなど色々取り組んでいる。 　我々から見ると何もないと思われる里山に魅力を感じて、都会から移住してきている人もいる。改めて自分の住んでいるまちの魅力に気づかされ、自然を売りにして話をするようにしている。本日、都内において移住の相談会を行っているところ。そういう場でも、地域の財産という視点からＰＲしていけたらと思っている。
社会教育委員会議	・　先ほどの話とはがらりと変わってしまうが、若いママさん達は子育てについて、より良い環境が欲しいと言っている。匝瑳市は恵まれた環境だとは思うが、病院が欲しいという声や母親が急に具合が悪くなったときに、預けられる場所があれば良いという声もある。人口減少について、みんな故郷が好きで、できれば東京

	とかにも行きたくない。匝瑳市に会社があってそこで働ければ、人口も減らないのではないかと思う。婚活でお嫁さん募集などよくあるが、お婿さん募集もやってみてはどうか。
事務局	・　子育てについては、6月に実施した子育て世代を対象とした市民懇談会で、匝瑳市は子育てがしやすいとお褒めの言葉をもらった。市も子育て支援に力を注いでいる。一度市外に出て、子育てをするのに匝瑳市へ戻ってきたら子育てしやすいという意見をもらった。 　雇用については、大きな課題だと認識している。地域の雇用をいかにして創出するかだが、工業団地について現在区画が埋まっていて、そこから広がりというのは難しいところではあるが、市内の商店街には空き店舗があり、そういった空き店舗を活用しながら、企業を呼び込むとか、市内の起業したい人への金銭面を含めた支援をしている状況である。 　婚活事業は、平成23年から企画課で取り組みはじめた。御意見を頂いたお婿さんの件だが、事業が始まって以降そのような企画が1度あり、そのイベントでは結構カップルができた。そういった要望が強いということであれば、また企画したいと思う。
野栄文化会	・　市の発展がないと人口も増えない。昭和49年に野栄町で企画を担当した際に、農村地域工業等導入促進法を適用して工場誘致を行ったところ、鋼管工業が来てくれた。様々な地域を見て廻った中で、緑が沢山あるということが野栄町にした決め手とのことだった。工場誘致という言葉は死語になりつつあって、会社も来てくれないようだが、まだ見込みはあると思う。やはり、工場や農業など産業振興が進まないとまちは発展していかない。 　産業振興という点で見れば、生産性が大事。農業生産という形で行くと、かつて野栄町では丸ナス、ピーマン、ししとう、かぼちゃ、さつまいもを作る生産団体が多かったが、今はそれほどでもないようだ。中でもさつまいもは、現在、色々な種類があり、焼き芋からスイーツまで消費もあるようなので、こうした生産団体を育てるということも産業振興の中では良いのかなと思う。 　植木関係では、学校施設でブロック塀が倒れる出来事があったかと思うが、生垣で対応するのはどうか。今まではあまり儲からなかったが、現在は情勢が変わってきているようなので、そういうところにも目を向けてはどうか。 　匝瑳市には里山もあるが海もある。海岸砂地でハマヒルガオが綺麗な時期がある。のさかアリーナの緞帳や野栄総合支所の玄関を入った右手にハマヒルガオの絵がある。海岸をＰＲするには、ハマヒルガオが一番良い。また、ロケの話と関連して、かつて海岸地区には野球場が５つあり、その中でも西浜のグランドは素晴らしいクロマツで囲まれた良いところだったので、フジテレビのドラマ撮影などに使われた経緯がある。里山だけではなく海岸もロケに使えるのではないか。 　市役所について、合併前は役場と町民は家庭的な雰囲気があった。組織が大きくなると難しいかもしれないが、手が届くようなつながりのある行政でないと

	「協働」は進まないのかなと思う。 　今、野栄町で海岸地帯が活気あるのは、かつて造成地を作り町有地の払い下げをしたため。現在、空き地があると思うので、造成して住まいを提供するということも大事ではないか。
事務局	・　沢山の匝瑳市のお宝を紹介していただいた。ハマヒルガオや、ブロック塀の問題についても市の特産物の植木を使ってはどうかという御提案を頂いた。農業振興については、以前丸ナス、ピーマン、ししとうなどの生産が盛んであったということで、生産団体の育成が必要であるという御意見も頂いた。また、工場の誘致ということで、雇用をいかに創出していくかの大切さもお示しいただいた。 　市が大きくなったということで、市民と少し距離ができてしまったのではないかという御意見かと思うが、市民協働を前面に出して進めており、今の時代は市側だけでは解決できない問題も多く、市民の皆様の協力を頂きながら解決に向けてともに頑張っていきたいと考えている。皆様から頂いた御意見は担当課と情報共有させていただく。
体育協会	・　銚子連絡道路を活かしたまちづくりは、匝瑳市の課題の一つであり、今後、影響があると思う。また、以前は海を活かしたまちづくりという話しもあったが、東日本大震災の影響で進んでいない。
事務局	・　銚子連絡道路の工事は、順調に進んでいて観光面でも非常に期待ができると思う。 　海岸の振興について話が出ていたが、「まっぷる匝瑳市」というガイドブックを作り、その中で「海めし街道」というページを作成するなどＰＲを行っている。
市長	・　素晴らしい意見を頂戴し、有意義な懇談会だったと思う。今日の懇談会中で足りないところや気が付いたところなどあれば企画課まで連絡を頂ければと思う。
事務局	・　頂戴した意見は市役所の中で共有しながら、今後の検討材料とさせていただく。 **５．閉会** **以　上**

第２次匝瑳市総合計画策定に係る市民懇談会（団体対象）　結果概要

○開催日時　平成３０年１１月２６日（月）　１９時００分～２０時３０分
○場　　所　匝瑳市役所　２階議会棟第２委員会室
○参 加 者　田邊久利(匝瑳市みどり平工業団地連絡協議会会長)、川口泰弘(匝瑳市ＰＴＡ連絡協議会副会長)、鎌形春枝(匝瑳市保健推進員会会長)、伊藤敏子(匝瑳市母子寡婦福祉会会長)、林幸子(ＮＰＯ法人ＷＩＴＨ理事長)、山﨑優子(匝瑳市手をつなぐ育成会理事長)、小川総一郎(商工会青年部部長)、片岡拓実(ＪＡちばみどり青年部そうさ支部八日市場地区支部支部長)、角田洋子(ＪＡちばみどり女性部そうさ支部八日市場地区支部支部長)、川村芳枝(ＪＡちばみどり女性部そうさ支部三栄地区支部支部長)、並木富子(交通安全協会婦人部部長)
○市出席者　太田安規市長、大木寛幸企画課長、大木進一秘書課長、林雅之企画課室長、畔蒜稔行秘書課副主幹、江波戸英樹企画課主査、小林直己企画課主査

発言者	内　　容
	１．開　会
	２．市長あいさつ
	３．自己紹介
	４．意見交換 **⑴　テーマ１** **匝瑳市の理想の将来像について。** **今後、匝瑳市がどんなまちであって欲しいとお考えですか。** **⑵　テーマ２** **テーマ１のまちになるために必要なこと。** **≪参加者からの質問・意見≫**
ＷＩＴＨ	・　障害のある子を放課後預かる事業を実施している団体である。放課後預かっている子どもは、特別支援学校に通っていて、ちょっとできるけど一般就労ができない子どもがいる。できそうな仕事をマッチングしてもらったり、障者者が自分で生活費を稼げるようになると温かいまちだなと思ってもらえるのでは。理想はそういう風になって欲しい。
事務局	・　ＪＡでの取組やできそうなことなどあれば発言願いたい。
ＪＡ女性部 八日市場	・　小学校へ行き、食育に取り組んでいる。子どもたちにさつまいもなど地元で採れたものを提供し、色々な手伝いをしているが、子どもが少ないように感じる。
ＪＡ青年部	・　障害を持った人の支援の話が出たが、実際自分も障害を持った家族がいたので金銭的な部分も含めて苦労した。

	市役所で相談に乗ってもらえたことは心強く、良い意見や情報を得ることができたが、もう少し早く市役所など助けてもらえる場を知っていれば、生活しやすくなったのかなと思う。情報量(網)が少ないと感じる。
ＪＡ女性部 八日市場	・　気管支切開をした子どもの話だが、旭市のこひつじ子ども園で受け入れてもらえたので現在通えている。匝瑳市にある、あかしあこども園に入園できると思い楽しみにしていたが、看護師が配置できなくて入園できなかった。卒園後、小学校という大事な過程がある。そういう子どもたちがいる家庭は、早くから教育委員会に相談することが大事なようだ。私も知らないことがたくさんあるが、障害児のおかげで障害に対する世の中の体制を知ることができている。 旭中央病院では周産期母子医療センターがある。匝瑳市にもたくさんでなくてもよいので、そういった体制を整えて欲しい。
ＷＩＴＨ	・　特別支援学校では看護師が配置されているが、普通の学校では難しい。痰の吸引は家族や看護師しかできないので、学力的な能力が劣っておらず、その処置のみを要する子どもは、看護師の予算を取ってもらえたら普通の学校に通えるのではないかなと思う。世の中、色々な子どもがいるんだなということを偏見だけではなくわかって欲しい。
市長	・　福祉はもちろんだが、協働のまちということで市民と一緒に力を合わせて頑張っていく。
手をつなぐ育成会	・　手をつなぐ育成会は、八日市場第二中学校の近くにある匝瑳市就労支援事業所ほほえみ園の指定管理者をしている。ほほえみ園では、障害により就労が困難な人に対する就労支援や生活指導などの支援をしている。利用者の平均年齢は、40歳近くで再来年卒業する人が１人いる。色々なことをさせて、利用者の能力を少しでも高めていけたらと思っている。そのことによって、お給料を貰えるようになると良いと思う。
保健推進員会	・　事業案内のチラシを配ったらどうか。もし、家族内にそういうお子さんができた場合、そういう支援があるということが分かって良いのでは。
ＷＩＴＨ	・　匝瑳市に障害者自立支援協議会があり、発達障害のパンフレットを学校に通っているお子さんの全家庭に配るということを毎年している。それがきっかけで相談に行ったり、幼稚園の先生や福祉課も目を光らせている。配っているので気になっている人は見ていると思う。
事務局	・　市からの情報発信や提供が少ないとよく言われるが、どういう形で情報発信すると皆様の目に留まるかなど考えながら進めていきたい。
みどり平工業団地	・　匝瑳市は情報の開示の仕方が上手ではない。工業団地でもそうだが、隣の人が何をしているのか知らなかったりする。「工業団地を知っているか」の問いに対して「知らない」と返ってくる。そこでまずは、知ってもらうということから始めようということで、今年で３年目になるが子どもに職業体験をしてもらう、「さんさんフェスタ」というイベントにブースを出させてもらっている。匝瑳市から始まって旭市・銚子市で、また来年戻ってくる。工業団地にある 27 社の仕事内

	容を周知するようにしている。 工業団地なので、「安心安全に暮らせるまち」の中でいえば安心して働いてもらう、産業振興は当然重要なテーマである。工業団地の中では、世界進出している会社もある。情報発信する能力が低いこともあり、今日初めてそのことを知る方もいらっしゃると思う。 そして、地元の会社は地元の子に就職して欲しいという思いがある。工業高校との意見交換会を行い、匝瑳市在住の生徒に会社を紹介している。ミスマッチが怖い。就職しても自分のイメージと違うということで辞めてしまうというのは残念なので、会社の仕事内容をよく知ってもらいたいことから工場見学も実施している。意見交換会も実施しており、生徒と年齢の近い若手社員が参加して話をしてもらう。実際に参加してくれた生徒が就職するという嬉しい結果が出ている。 今年度は、工業系以外の生徒も参加し、旭市と銚子市と合同で意見交換会を実施する。 工業団地における仕事の状況は、2020 年に向けて比較的、好調な企業が多いが、人手が足りない。人手が足りない時に、報道でもよく言われるのが高齢者・女性・外国人・障害者の方。自分の所属する会社では、ハローワークの協力を得ながら支援学校の職業体験を行っている。それをきっかけに来春には一般従業員として知的障害者の方２人を採用する予定。身体障害者の方は、工場という部類で働くのは難しいが、現在はパソコンだけでかなりの仕事ができるということもあり、体が動かなくても目が動くだけでパソコンの操作ができる技術がある。体が動かなくても稼げる手法は増えてきているが千葉県のこの辺りの地区にはないが、市でもそうした情報を収集し、広めてもらえればと思う。 高齢者に関しては、匝瑳市シルバー人材センターと連携していて、延べ 10 人ほど来てもらっており、私の会社の現役で一番年齢が高い方は 80 歳。仕事内容は決まっているが、やれることやれないことを分かってもらって、受け入れ体験などできればと思っている。 やはり、情報の提供は大事だと思う。提供の媒体は紙だけではなく、電子化して提供することを考えるのはどうだろうか。紙で配ることも大切だが、紙だけではなく別の媒体で行うことが周知を助けることになるのでは。それを見るか見ないかということもあるが。例えば、スーパーの協力を得て袋詰めにする前にチラシを配ってもらうなどやり方は色々ある。みんなで知恵を出し合っていくことが市民参加ということ。そういう意味でも皆さんから御意見を頂いた方が良いのではないかなと思う。 また、企業は来年度から働き方改革で中小を含めて対応が大変になる。来年４月からは、有休を５日取らせなければいけない。人手不足で、なお休みを取るとなるとやりくりが大変になるので、高齢者などお願いしていかなければならなくなるのではないか。 就業者にひとり親という方もいる。学校などから連絡があるなど何かあった場

	合は、余程のことがない限り、早退を認めるようにしている。なるべくお互いを理解するように心がけている。できる限りひとり親の方も安心して働けるような環境づくりを行っている。女性のひとり親よりも男性のひとり親の方が大変な印象。中でも父親と娘の家庭が大変で小中学校にあがるタイミングの子育てが難しいとの声がある。相談相手がいないため、会社としてもできるだけサポートしている。大きい企業だとサポート体制があるが、中小企業だとその辺りがない部分もあるので、公的サポートが今後必要だと感じる。 　まちづくりにおいて、医療という点も大切だと考える。働きやすいためには子どもを育てるだけではなく、介護も必要。そういうところでも働き続けられる仕組みが望まれるのではないか。意見としては幅広くなったが、こういうことに取り組んでいる。
市長	・　行政は情報伝達をしっかり、上手に行うようにとの意見を頂いたが、議会でも市民に対して情報が広く行き渡るようにと言われている。市もホームページや広報など、「見てもらいたい」という気持ちで作成している。ホームページもリニューアルしているところ。本日は、担当が出席しているので、広報についての取り組みや姿勢を説明するので、意見をいただければと思う。気軽に相談してもらえればと思う。
秘書課長	・　広報・広聴の立場から「広報そうさ」あるいはホームページにおいて情報発信を担っている。先ほどから情報発信が下手だという意見を頂戴しており、庁内で頑張っていかなければならないと思っている。市長から話があったとおり、現在ホームページのリニューアルを進めているところである。今のホームページは、パソコンのみでスマホ対応できておらず、時代遅れになっているので、スマホやタブレットに対応できるように、また、使いやすいように、情報が分かりやすいようにリニューアルを進めているところである。来年の３月末を目途に切り替える予定。リニューアルしたことで市民に見てもらえるようになるかは、内容次第といったところもあると思う。また、福祉の分野においても足らないところがあると、意見を頂いているので、その辺りも情報発信できるよう努めていきたい。
市長	・　市でも情報発信の改善を行っているが、足らない所があるかと思うので意見を頂ければありがたい。
事務局	・　会議冒頭でマッチングの話に始まり、障害のある方の自立や工業団地の活動内容や実情などお話いただいたが、今日初めて聞いたという方も多いと思う。この会議で顔を合わせたことをきっかけに顔馴染みになり、それぞれの団体の皆さんが情報交換を今後も続けてもらえることがマッチングにも繋がるきっかけになるのではないかと思う。 　次に、自立をして働き続ける仕組みの重要性については、人口減少が進んでいる中、子どもが少ないという話があった。みどり平工業団地連絡協議会から、「さんさんフェスタ」の話があったが、来年度は匝瑳市が会場になる。主会場は、そうさ記念公園になる予定で６月８日実施に向け計画を進めている。地域の人口減

	少をどうにかしたいという思いから取り組みが始まり、子どもたちに地域に残ってもらいたい、そのためには地域にこんな仕事があることを子どもはもちろん、子どもたちに大きな影響力がある親御さんにも知ってもらいたいということから、たくさんの企業、商店、行政、各種団体などが、自らの活動の状況を説明するブースを出すというイベントになっている。本日もたくさんの団体の皆さんに参加してもらっているが、イベントに参加したいという気持ちが少しでもあれば声をかけて欲しい。調整させていただく。開催市でもあるので、匝瑳市の団体や企業に多く集まってもらいたい。他の自治体からも参加するので、そちらに対しても情報を発信していきたいと考えているので御協力を頂きたい。
ＰＴＡ連絡協議会	・　情報共有の件に関して、先ほどもスマホのことが出ているが、例えば、小学校では台風で学校が休校になるなどの情報はメールで配信されていて、親御さんも必ず見ている。そういう風に情報を共有できることは素晴らしいことだと思っている。学校関係だけではなく、市の行事などの情報発信もそういう仕組みができたら良いと思う。
市長	・　メールでの情報共有は、100％なのか。
ＰＴＡ連絡協議会	・　自分の子どもの学年での情報共有は、100％だと思う。例えば、インフルエンザで休校とか猪が出没したなどそういう情報も流れる。
交通安全協会婦人部	・　スマホが操作できない人に対しては、広報そうさなどで情報を流してもらいたい。
手をつなぐ育成会	・　外国人労働者は、匝瑳市にはどの位いるのか。自分が勤務している病院の理事長が中国人を援助してあげようという奉仕の精神で看護師の資格を持った方を雇用しているが、日本語が通じないため、患者と中国人看護師の間に日本人の従業員が入っている状態で、こちらとしては忙しいのにと思うところもある。客商売のところではトラブルがあったりするのではと思うのだが。
市長	・　匝瑳市に住んでいる外国人は 400 人ほどだが、就業している人が何人いるかは把握していない状況。もう少しすれば、外国人雇用についての政府の方針も決まるはずである。閉校した小学校の利活用として、外国人に対する日本語学校を開校して、日本語を学んでもらい、就職できるようにするといった事業を展開する企業からの問い合わせがある。
保健推進員会	・　自分の住んでいる近くで就労している中国人は、日本語が流暢な人がいるが、話を聞いてみたところ、ある程度母国で勉強してから来日しているとのこと。
市長	・　外国人の日本での就労は、ある程度日本語の基礎ができていないと難しいのかもしれない。
ＪＡ女性部八日市場	・　団体でいると日本語を覚える必要がないから、日本語の習得が難しいのかもしれない。仲間がいると仲間と話してしまう。
市長	・　外国人の雇用ということで、近い将来たくさん来日すると予想される。匝瑳市も対応できるようにする。
ＷＩＴＨ	・　人口が増えるのは外国人であっても問題はないのか。

市長	・　問題ない。
事務局	・　空き家の問題で困っていることはないか
保健推進員会	・　隣も裏も空き家だが、管理してもらっているため、現在特に困っていることはない。
ＰＴＡ連絡協議会	・　大阪で地震がありブロック塀が倒れ、子どもが犠牲になった経緯から、空き家の塀が危険であったため、市に連絡したところ、市から速やかに空き家の所有者に連絡がつき、撤去してもらった。野生動物が出没すると空き家はすぐに荒れてしまう。
ＪＡ女性部八日市場	・　空き家と認識していても、所有者がわからないので誰かに紹介することもできない。
事務局	・　マッチングの話があったが、空き家のマッチングに市では力を入れている。
ＪＡ女性部八日市場	・　空き家の所有者が申請しないとその制度は利用できないのか。
事務局	・　そのとおりである。固定資産税の納税通知書を送付する際に制度のお知らせを同封している。
保健推進員会	・　空き家は管理する人がいないと３年で草だらけになってしまう。何かあっても敷地に入れない。犬や猫のたまり場になるケースもある。
ＷＩＴＨ	・　例えば、持ち主が分からない空き家が老朽化して危ないといった場合、市が撤去できるなど条例はあるのか。
市長	・　まだ撤去したことはないが、条例は制定した。
保健推進員会	・　空き家を管理する人が匝瑳市におらず、所有者の子どもは知っているが、話しをしても手入れをしてくれない。ブロック塀が半分倒れている状態。子どもたちの通学路でもあるので、できるだけそこを避けて通学している。
市長	・　単に荒れているからという理由だけではだめだが、本当に危険だという状態であれば代執行してもよいという条例を制定した。代執行すると、新聞に掲載されるようで、香取市で行ったという記事を見たことがある。本当に危険だという時には実行しなくてはならないと考えている。
ＷＩＴＨ	・　まだ代執行をしたことはないとのことだが、条例ができたということは予算計上されているのか。
市長	・　応急措置の予算は確保してある。代執行の費用は持ち主からもらうということになっている。
母子寡婦福祉会	・　若いお母さんが離婚して匝瑳市へ帰ってきた人は、市から援助してもらったら、子どもを保育園に預けて働けば良いと思うが、働かずに遊んでいる人が多いように思う。どのような審査基準を設けているのかと思うときもある。中には本当に困っている人もいるが。
市長	・　基準に基づいて審査していると思うが、実情を把握することも大事。
母子寡婦福祉会	・　母子寡婦福祉会の県の大会への出席を依頼しても母子の関係者は出席してくれる人がいない。

ＪＡ女性部 八日市場	・　保健推進員は様々な場所に出ているから、多くの情報を知っているかもしれないが、今日、懇談会に参加して、色々な団体があることを知った。
市長	・　その気づきだけでも今回の会は成功したと言えるのではないか。
ＪＡ女性部 八日市場	・　この後、交わる機会がないから終わってしまう。
市長	・　商工会からは何かないか
商工会 青年部	・　青年部としては、若手が少なくなっている。30 代前半が１人、20 代は１人もいない状態。人数がいなくて厳しくなっているが、お祭りなどに出展し子どもたちに楽しんでもらいたいと思っている。他の自治体だとゆるキャラのクリアファイルやうちわを作り、市をＰＲするものが結構あるので匝瑳市も力を入れてもらいたい。
事務局	・　地域のイベントやゆるキャラの話が出たが、そこにいる人達に市に愛着を持ってもらいたいという話につながってくると思う。一度離れた人もまた戻ってくるという種にもなるのではないか。先ほど話していた人口減少の件にもつながるが、今、高校生にもアクションを起こしているところである。大学進学で一度外に出る生徒は多いと思う。それはそれで仕方がないが、帰ってきてもらいたいという気持ちを込めて、市に愛着を持ってもらえるような活動に取り組んでいるので御協力を頂ければと思う。
ＪＡ女性部 八日市場	・　後継者がいない。また、農業まつりに出るにあたって、今年は保健所が厳しくて出店が難しいと思った。これ以上厳しくなったら出店を諦めようかとさえ思った。
市長	・　他の祭でも保健所が厳しくなっているという話を聞く。色々と間違いがあったら困るということかもしれないが、市としても保健所と連携し、喜んで協力してもらえるという体制を整えたい。
ＪＡ女性部 八日市場	・　団体の活動の課題としては、後継者がいない。高齢者ばかりになっている。若い人が入ってきてくれない。働いているから難しいとか、農家の人も入ってくれない。女性部もなくなってしまいそう。
ＪＡ青年部	・　人はいるが、お金にならないし、時間もとられ、知らない人と活動しても…という人が多い。
事務局	・　会議に出席している役員の皆さんがイベントに参加されているのは、楽しいからか。
ＪＡ女性部 三栄	・　大変なこともあるけど、楽しい。ただ、楽しいということを若い人に上手く伝えられていない。誘ってはいるが、断られている。
ＪＡ女性部 八日市場	・　スポーツでもそうだが、若い人はスポーツ自体は好きだが、団体ではやりたくないと思っている。好きなときに個人でやりたいと思う人が多い。役員が回ってくるのが嫌だとも思っているのではないか。
みどり平 工業団地	・　商工会の理事もやっているが同じ状況で、複数の役職を兼任もしている状態。

ＪＡ女性部 八日市場	・　同じ人ばかりがこのような委員になっていて、これで市は良くなっていくのかという疑問もある。
交通安全協会婦人部	・　交通安全協会は、全体で約 210 名。婦人部は 68 名で県指導員は 62 名程度。だいたい出てくる人は同じ人で、若い女性の方は勤めているので中々参加は難しい。忙しいという理由で会議も出席はするが途中退出したり、行事には出られないという方が多い。保育園や小中学校での交通安全教室、広報活動、キャンペーン活動などやっているが、参加できる人が高齢化している。若い世代は名前だけの人も多いという現状。
保健推進員会	・　カーブミラーをせっかく設置しているのに、汚れていて役割を果たしていない。自分が交通安全協会に参加していた時は、年に１回か２回ほど清掃していたが、現在はそのような活動をしていないのではないか。
交通安全協会婦人部	・　以前はそのような清掃活動もしていたが、高いところに設置されていて危険だということで無くなってしまった。
保健推進員会	・　清掃をする側の人は、高いから危ないということだが、そこを通る人は交通面で危険である。
市長	・　市役所に交通安全協会の窓口があるので、そのような意見があったと伝えておく。交通安全の施設について点検するように伝える。
保健推進員会	・　自分の住んでいる地区で誰が安全協会に加入しているかもわからない。だから、カーブミラーの件も今日この場で話をさせてもらった。 　他の自治体でＯ157 が出たりなどあり、匝瑳市でも独居高齢者の方に作っていたお弁当づくりをやめましょうという話になった。お年寄りの方は楽しみにしてくれているが、２時間以内にその場で食べてもらわなければならない。今までは参加できない人には持って行っていた。今年から弁当を作るに当たり、便検査を行うことになり、その検査代を補助してもらえないかという話も出た。気候も温かくなってきているので、こうした新たな取組を行っている。
ＪＡ青年部	・　泥棒などの防犯対策をお願いしたい。また、農家をしているので、普通に出せないごみ対策。具体的には、エンジンオイルや大きい粗大ごみ、農薬など。農薬は農協で回収してくれてはいるが、年に数回のみとなっている。市でも取扱ってもらい、捨てられる回数が１回でも増えたら楽になるので嬉しい。廃棄の日までストックしている状況である。
事務局	・　担当の部署が来ていないので適正な回答ができなかった部分があったかもしれないが、頂いた意見は市役所内で情報共有をしっかりしていきたいと思う。貴重な意見を頂き、今後検討していく中で充分対処していきたいと思う。 **５．閉会** **以　上**

第２次匝瑳市総合計画策定に係る市民懇談会（団体対象）　結果概要

○開催日時　平成３０年１１月２７日（火）　１９時００分～２０時３５分
○場　　所　市民ふれあいセンター２階第３会議室
○参 加 者　桑田克己（北総東部土地改良区八日市場工区副工区長）、依知川敏男（千葉県借当川沿岸土地改良区理事長）、鎌形正夫（吉田西部土地改良区理事長）、平石恭太（両総土地改良区山武支所主査）、石原勝一（武道振興会理事長）、伊藤栄治（匝瑳市農業委員会会長）、大塚榮一（匝瑳市商工会副会長）、黒須公夫（匝瑳市商業協同組合理事長）、岩井清（匝瑳市観光協会会長）、須合重徳（匝瑳市農業振興会会長）、萩原幸雄（農事組合法人八日市場植木組合組合長）、鈴木弘（（公社）匝瑳市シルバー人材センター会長）
○市出席者　太田安規市長、大木寛幸企画課長、大木進一秘書課長、林雅之企画課室長、畔蒜稔行秘書課副主幹、江波戸英樹企画課主査、小林直己企画課主査

発言者	内　　容
	１．開　会 **２．市長あいさつ** **３．自己紹介** **４．意見交換** **⑴　テーマ１** **匝瑳市の理想の将来像について。** **今後、匝瑳市がどんなまちであって欲しいとお考えですか。** **⑵　テーマ２** **テーマ１のまちになるために必要なこと。** **≪参加者からの質問・意見≫**
北総東部	・　北総東部の区域は、豊和地区、飯高地区、椿海地区の一部、匝瑳地区の一部となっている。そのうち、１期区域の椿海地区と匝瑳地区の方は意外ときれい。豊和地区方面は入口が多古方面から入ってきて、南に行って行き止まりというのがいくつもある。地元で地主は何十人もいるが、自分の田んぼの周りがどうなっているか分からない人が大勢いると思う。これからは、農道脇の草、雑木、休耕地、耕作放棄地など人が入っていかないところをきれいにし、環境を保全していく必要がある。市民協働とつながるのかもしれないが、豊和地区の大寺では、保全会で草刈りを始めたが、全部は回りきれていない。農業委員会も休耕地や耕作放棄地については、一生懸命対応していると思うが、荒れている。田が荒れていると水が浸透しないため、道路の方へ

	水が流れてしまう。また、荒れた田に猪やハクビシンがくると、それらの動物についているマダニも家の近くまで来ることになる。休耕地や耕作放棄地をきれいにすることで、ゲリラ豪雨時の水の対策と動物によるマダニの発生対策につながるのではないかと思う。
市長	・　土地改良区と行政が相談していく形が一番良いのかもしれない。
農業振興北総東部	・　若い人は勤めていて、農家をやる人がいない。
	・　農業委員会をはじめ、みんな考えてくれるとは思うが中々難しいのかなという印象。
農業委員会	・　今、農業委員会も考えてくれているとの発言があった。国の施策では、大農家を奨励していて、農地利用最適化推進委員が設置された。農地の集積については、綺麗な農地であれば 10 町歩、20 町歩の耕作をしている農家に耕作してもらえる。休耕地も１年程度であればともかく、何年もということになると農地の集積は難しい。千葉県園芸協会が間に入ってくれてはいるものの、現在、耕作できることが前提となる。
植木組合	・　現在は、農地の貸し手が多くなっており、それに伴って、良い土地を貸してくれるところが増えている。以前は、農地の貸し手がそれほど多くなかったこともあり、小型と大型両方の機械を所有していたが、今は良い土地を貸してくれる人が増え、また機械を２台所有すると費用もかかるので小型の機械を手放している。そのため、大型機械だけで対応できる土地を借りて、小さな田は返されている状況にある。
事務局	・　他の土地改良区も同じような状況か。
借当川沿岸	・　生産性のあがらない場所では、耕作しなくなってきている。人口減で消費も減っているので米の相場が上がらない。
市長	・　市の基幹産業なので、現状のままというわけにはいかない。何か良い手法等があれば教えていただき、市においても頑張っていきたい。
武道振興会	・　外国にお米などを輸出していると思うが、輸出用に植木とか食べ物を組合で作って、または外国人労働者に生産してもらい、それを海外で販売していくというのはどうか。外国の方は日本の食べ物は安全でおいしいと思ってくれているイメージがある。日本の物は高級なものでも外国の一部の人間は食べる。一方、貧困層の外国人は、日本に来てもらい雇用すれば良いのでは。その生産したものを海外に売れば効率的なのではと思う。行政機関に骨を折ってもらわないと実現できない話だと思うが、雇用と流通の確保ができるのでだいぶ喜ばれるのでは。個人ではできないが輸出事業としてなら可能なのでは。
市長	・　国会でも取り上げられている案件。良い考えを頂戴した。
植木組合	・　中国を例に話させてもらうが、日本で技術を修得して、本来は国外へ持ち出せない日本の良い種を持って帰り作っている。中国では、中国で生産した米を大陸育ちのコシヒカリとして、販売しているようだ。海外でどんどん生

	産されてしまっている。日本よりも農業技術は高く、畑においても日本よりも最先端。それが海外に流れている。盆栽の技術も国に持ち帰られてしまっている。
武道振興会	・　現実問題で労働者が少なくなっているから、海外から就労者を呼ぶのはどうか。
植木組合	・　彼らは頭が良いから、日本で学んで向こうでそれを始めてしまう。
武道振興会	・　外国人労働者がいれば、労働力はだいぶ助かるのではないか。労働力が無いから生産できないのでは。中国やインドも都市開発が進んでいるといっても一部である。外国人労働者の管理が難しいところはあるが、生活水準が低い外国人にとって、日本で働けるということは嬉しいと思う。
シルバー人材	・　地権者から草刈りを頼まれる。山畑をどうにかして欲しいと。ただ５年、10 年放置した荒地の草刈りは通常より２倍、３倍かかる。そのように伝えても時間がかかってもやってくださいと依頼が入る。先ほど話が出ていたように美化運動ではないが、面積が小さいところから整備をしていかないといけないと思う。シルバー人材センターでも 70、80 歳でも元気に働いている人が多いので取り組んでいきたいと思う。 外国人労働者の件について。昔の外国人労働者は、出稼ぎということで来日して賃金を稼いでいたが、今は技術を持ち帰る。外国人労働者は研究心が強い。日本も若い人がそのような選択をしてくれたら良いのにと思う。
市長	・　商工関係で意見があれば発言して欲しい。
商工会	・　後期基本計画概要版Ｐ11 の「２－２－２商工業の活性化」について話をする。活気ある商店街の形成だが、大変難しい問題である。ご存じのとおり現状は、大型店やインターネットに、モノの購入が移っているが、我々商売をしている者は、そういう中で工夫をしながら努力している。 一方で、若い人に商売をやってみたいという人が、市の中心部から少し離れたところで何人かいる。中小企業の振興ということで、６年前に小規模企業振興基本法が制定された。低利の融資や新聞などにも載ったスタートアップといったサポートなど、法律的には整備されてきている。若い人へ商売に対するチャレンジを商工会を通して促していきたい。 もう一点、横芝光町から５キロ区間匝瑳市に向かって高速道路の建設が進んでいる。完成は５年～６年後のようだが、銚子連絡道路が匝瑳市まで開通されれば、常磐道や東北道など、あらゆるところと繋がる。まちの魅力を高めて、外から人を呼び込み、まちに寄ってもらった際、みなさんに買ってもらえるのではないかと思う。そして、「駅からハイキング」が今年も２ヶ月ほど開催されている。平日でも意外と他の地域から匝瑳市に足を運んでもらっているようだ。そういう意味でも市のあらゆるところを高めていく必要があるのではないか。
商業協同	・　匝瑳市の理想の将来像について、活力あるまちをつくるには人口が増えな

	いとまちの発展はないと思っている。若い人に来てもらうためには、税制面での優遇を徹底的に行うべきだと思う。若い人を増やすことが一番大事で農業の活性化にもつながるのではないか。
武道振興会	・　若者の人口を増やすためには、空港までのアクセス改善が必要ではないか。成田市中心にモノが動いている割にはアクセスが悪い。学生も親が送り迎えをしているようだ。芝山鉄道ではないが、成田市とつなぐことができる市町があれば発展すると思う。
市長	・　おっしゃるとおり。近隣の首長と相談している。
武道振興会	・　バス会社と連携して匝瑳市と成田市をバスで結ぶとか、ホテルと契約してバスを出してもらうなど。
植木組合	・　第３滑走路の建設もあり、今後雇用の増加も見込めるので、匝瑳市は空港から 20 キロ圏内と近い、工夫すれば若者が来るのではないか。また、多古台の分譲地が完売する勢いだと聞いている。匝瑳市も同じような試みをしてはどうか。
武道振興会	・　多古台から東京へバスが出ているが、匝瑳市から東京へのバスはあるのか。
観光協会	・　往復何十本とある。
武道振興会	・　市民にあまり知られていないので、ＰＲが足りないのでは。成田空港は通るのか。
市長	・　成田空港は通らない。東京駅から成田のホテルを通って多古を回って匝瑳市に着く。
武道振興会	・　成田駅も行けるようになるとだいぶ違うのではないか。
植木組合	・　私は須賀地区に住んでいるが、須賀地区は保育園、小学校、小児科の病院があるということで大分住宅が建ってきた。第３滑走路の工事に伴い匝瑳市も住み良いまちづくりをお願いしたい。
武道振興会	・　道の駅もなく、飯高檀林など有名な観光地があるのに知らない人が多いので、イベントを行いＰＲしてはどうか。
観光協会	・　色々と御意見を頂いているが、観光協会では、駅からハイキングや駅前にある匝りの里で電動自転車を貸し出している。若い人がレンタサイクルを使い、短路であれば八社参り、長路であれば飯高檀林、ふれあいパーク八日市場などへ行っている。また、東京駅にパンフレットを置くなど努力しているが、なかなか難しい。
武道振興会	・　匝瑳市には宿泊施設がない。匝りの里周辺に市で宿泊施設を造り、管理してはどうか。そういう意味でも匝瑳市は来づらい場所となっている。武道をしているので外国との交流もあり、その関係者が匝瑳市に来る課題として、空港から匝瑳市へのアクセスの問題や宿泊施設がないことが挙げられる。
観光協会	・　宿泊施設がないことが一番の課題。宿泊施設があれば今以上に観光客が来る。
市長	・　確かに宿泊施設がないのは大きな課題という認識。

シルバー人材	・　宿泊の話がでているが、民泊はどうか。民泊を行政で管理できればと思う。空き家が増えているので活用してはどうか。
武道振興会	・　交通の便が良ければ、民泊という流れになるのかもしれないが。観光のためにタクシーを利用したら交通費が高くついてしまう。市内循環バスをたまに見かけるが需要がないように見える。市内循環バスの維持費は大変なのではないか。
市長	・　年間 7,000～8,000 万円かかっている。ただ、市内循環バスは観光というよりも、交通弱者の足として走らせている。
事務局	・　民泊の話が出ているが、最近「農家民泊」という言葉をよく聞いている。市内の事例や、やってみたいという声はあるか。
農業振興会	・　聞かない。空き家を使ってということか。
事務局	・　空き家もそうだが、自分の住まいの一部を提供してというような。
農業振興会	・　それもない。
観光協会	・　アルカディアの会で活動している人がいると思う。若い人が農作業や里山活動をしに来ているようなので、空き家を活用してもらうなど協力してもらうと良いのではないか。
事務局	・　ＮＰＯが間に入って、飯塚辺りが多いが、古めの空き家に住まわれている人も結構いて、先ほどから耕作放棄地の話が出ているが、休耕の田んぼを復田して無農薬のお米を作っているような事例がある。
市長	・　代表の方とは色々相談したり、連絡を取り合っている。今後、もっと協力を広げることが出来ればと思う。
吉田西部	・　農業の件で言うと、本当に担い手がいない。地区の中で組合員は 23 軒いるが、実際に耕作している人は３人しかいない。その方も 70 歳近くであり、あと数年で誰も耕作する人がいなくなってしまう。でも、農地を維持管理していくためには誰かがしていかないといけない。30 年ほど前に区画整備の話が出たことがあるが、費用面で反対となった経緯がある。現在は当時やらなかったことを後悔しているが。現在、区画整理については、モデル地区としてできないかと海匝農業事務所と話しをしていて、地権者に負担がかからない方向であれば検討しましょうとのことで進めている。中間管理機構が間に入っているが、多少お金はかかってしまうようだ。地権者は多少でも負担があれば反対されてしまう。
市長	・　借当川沿岸土地改良区は、区画整理の話は進んでいるのか。
借当川沿岸	・　準備組織を作る段階。農家負担が 10 アール 10,000 円を超えてくるとまとまりにくい。調査費は工事に入ればお金はかからないが、事前の調査費用に大金がかかる。
市長	・　費用については、国、県、地元の市町村、地主ということで率が決まっている。
借当川沿岸	・　過去に区画整理について話が出た時、自分も反対したが、行っておけば良

	かったという思いもある。
吉田西部	・　市内で大きな会社が農業に参入している事例はあるか。
事務局	・　市内ではないが、ＡＩを使って管理をして生産性を上げるなど、異業種が農業に参入しているという事例は多い。
市長	・　大手企業でいうと伊藤忠商事が視察に来たが、条件が合わなかったということがある。
事務局	・　農家の方からすれば大企業参入は良い話として捉えられるのか。
吉田西部	・　農家やめてもそこで収入源を得られるのであれば。ただ、土地の維持管理が難しい。土地面積が小さく補助金が使えない状況。労働者がいなくなると困ってしまう。今後、休耕田が増えるのは目に見えて分かっている話。後継者がいれば続けていくのだろうけど、今の機械が壊れたらやめますという感じ。
事務局	・　耕作放棄地と担い手不足というのが課題になっているということか。
吉田西部	・　そのとおり。今、小学生の体験学習で田植えとか稲刈りをしているが、その子たちが担い手になるかという疑問もある。農家の収入は厳しいため、子どもたちがその気になっても親が反対すると思う。
両総	・　現在必要なのは基盤整備と思う。やはり、担い手の人たちは条件の良い土地を借りていく。ほ場が狭いとなると借り手がつかない。ほ場の大区画化かパイプライン化、暗渠排水を利用して、高収益作物の転換を推進して儲かる農業をＰＲしていくべきではないか。
事務局	・　報道を見ていると、農業は人気が出てきていると言われているが。
両総	・　米作の方は低迷しているが、畑作は伸びている分野だと思うので、そういうところに転換していき、農業が儲かるというところをＰＲしていかないと担い手が集まらないと思うし、そういったところを市で補助してもらいたい。区画整理の事業実施に関して計画策定をする際の費用補助がないので、市が単独で補助してくれるのであればそれが一番ありがたい。
観光協会	・　旭市はハウス園芸が多いように思う。なぜ匝瑳市は田のみなのか。旭市の農家はびっくりするような収入がある。
市長	・　旭市は土地も平坦なところが多いが、匝瑳市の半分は里山になっていて、地形的に旭市のほうが有利。
吉田西部	・　農家で生活ができれば、みんなやると思う。農家で生活ができないから勤め人になるのではないか。
農業委員会	・　農家で生活できないことはないと思うが、土日休みは絶対にない。
借当川沿岸	・　現状の農家の規模は小さい。大きい土地を持っているところはある程度休みを持てる。稲作をしているときに休みは取れないが。農閑期の休みは長く取れるというメリットはあると思う。
事務局	・　植木も同様か。
植木組合	・　植木の場合はこれを収穫したら休みを取るなど、自分たちで休みを調整で

	きる。
吉田西部	・　米は相場が決まっているので、無農薬の米など付加価値をつける必要があるのではないか。
商業協同	・　素人考えだが、土地改良区で個人の地主で分けず、まとめて貸したりはできないのか。
吉田西部	・　それが大区画整理のことで、農地中間管理機構が貸し出しをしているが、なかなか話がまとまらない。今ある 150 町歩のうち 50 町歩位が休耕地になったら、区画整理に対して後ろ向きな人が考え出すようになる思う。どこの家庭もそうだが、米を食べない。全国的に見ても同様の傾向。消費が伸びないので米の値段が上がらない原因の一つなのかもしれない。
武道振興会	・　匝瑳市に外国人就労者は何人位いるか
市長	・　昨日も話題に出たが、外国人就労者の人数は把握していない。市内に住んでいる方は 400 人程度いる。
武道振興会	・　みなさんが挙げている問題は、結局のところ労働力が足りないということではないか。人が来て働いていれば利益が上がると思う。だが、それをクリアするには日本人では無理なのでは。行政が、例えば文化交流という観点から姉妹都市を作り、そこから数百人単位で外国人を受け入れ、教育し、数年ごとに入れ替えを繰り返し、労働力を活発化させ、流通を向上させるのはどうか。海外から技術職を入れたところで海外に技術を持って帰られるという懸念があると話が出たが。
観光協会	・　単純労働でないと、みんな技術を持っていかれる。
事務局	・　最後にこれだけは話しておきたいということがあれば、お話しいただきたい。
商工会	・　まちづくり戦略室はどのようなことを担当しているのか。
事務局	・　企画課の中にあり、中心に扱っているものとして、人口減少対策について総合的に行っている。本日、話に出ていた空き家の活用の問題、転入者を増やす対策、婚活など様々なことに取り組んでいる。 　本日は、耕作放棄地、担い手ということが大きな課題として挙げられ、他にも成田へのアクセス、宿泊施設の問題など沢山意見を頂きお礼申し上げる。頂戴した意見は市役所の中で共有しながら、今後の検討材料とさせていただく。 **５．閉会** **以　上**

第２次匝瑳市総合計画策定に係る市民懇談会（団体対象）　結果概要

○開催日時　平成３０年１１月２９日（木）　１９時００分～２０時３０分
○場　　所　市民ふれあいセンター２階第３会議室
○参 加 者　鎌形廣行（（福）匝瑳市社会福祉協議会会長）、佐藤喜巳（匝瑳市防犯協会会長）、宮内宏己（（一社）匝瑳交通安全協会理事長）、大塚榮一（匝瑳地区安全運転管理者協議会会長）、秋山忠史（匝瑳市消防団団長）、大木公正（匝瑳市不法投棄監視員連絡会議会長）、鈴木幸司（匝瑳市八日市場建築連合組合組合長）、小原久幸（（一社）千葉県建設業協会八日市場支部支部長）、加瀬功一（匝瑳市ボランティア連絡協議会会長）、石橋和雄（匝瑳市民生委員児童委員協議会副会長）、長與成憲（匝瑳人権擁護委員協議会第三部会匝瑳市支部支部長）、増田健太郎（（一社）旭匝瑳医師会理事）、斉藤馨（（一社）旭匝瑳薬剤師会）、熊切茂（匝瑳市身体障害者福祉会会長）、大木三喜男（匝瑳市区長会会長）
○市出席者　太田安規市長、大木寛幸企画課長、大木進一秘書課長、林雅之企画課室長、畔蒜稔行秘書課副主幹、江波戸英樹企画課主査、小林直己企画課主査

発言者	内　　容
	１．開　会 **２．市長あいさつ** **３．自己紹介** **４．意見交換** **⑴　テーマ１** **匝瑳市の理想の将来像について。** **今後、匝瑳市がどんなまちであって欲しいとお考えですか。** **⑵　テーマ２** **テーマ１のまちになるために必要なこと。** **≪参加者からの質問・意見≫**
社会福祉協議会	・　個人的な立場から発言させてもらう。後期基本計画概要版４ページの「匝瑳市の現状」に掲載されている成田空港についてだが、匝瑳市は確かに成田空港から約 20 ㎞と近いところに位置している。現在、成田空港では機能強化ということで住民説明会などが開催されているが、その中では、機能強化の必要性や滑走路の位置などが示されている。大きな柱として、３本目の滑走路いわゆるＣ滑走路とＢ滑走路の北側への延伸である。直接関係する市町の住民にとっては生活が一変する。集落全体の移転など苦渋の選択を迫られ、また、騒音などの環境の変化も考えなければならない。しかし、成田空港は日本の空の玄関であり首都圏の国

	際拠点空港として更に重要な役割を担っていくことが求められている。また、機能強化による効果などについては、旅客数や貨物量の大幅な増加が見込まれるとともに、空港周辺地域には産業振興やインフラ整備、対策交付金も付与される。匝瑳市は多古町が成田空港との間にあるので直接関係ないかもしれないが。 機能強化に伴い空港内の従業員数が現在 40,000 人ということだが、70,000 人に増加するとも言われている。周辺地域で期待される効果としては、企業の進出、また、地元農水産品の消費や輸出の拡大、雇用の創出、観光客の増加も見込まれる。このようなことから、匝瑳市は空港の規模拡大とは直接的には関わりが薄いものの、地理的には成田空港に近いわけで、若年層の雇用、また、お土産や農水産品などの供給地として役割を担うことで産業の活性化が図られるのではないか。 第２次匝瑳市総合計画の期間は、平成 32 年度から 12 年間であることから、並行して本市の産業振興策にどうのように関われるのか検討したら良いと思う。 そして、もう１点、公津の杜駅近くにある成田市公設地方卸売市場の移転候補地が成田空港に隣接する千葉県花植木センター跡地ということで、県と用地交渉しているとの報道を見聞きする。それが実現すると、匝瑳市から大分近くなるので追い風になるのかなと思う。
市長	・ 成田空港の機能強化ということで雇用が 40,000 人から 70,000 人に増えるというお話を聞いたが、成田空港に関して匝瑳市がどの様な形で関わっていくべきか。何かアイディアがあれば発言願いたい。
事務局	・ 成田空港関係の御意見があればお聞かせいただければ。
ボランティア連絡協議会	・ 先般その話を聞いたが、新たに雇用が生まれた場合、その人たちの居住地域に匝瑳市はぴったりだと思う。ただ、何か対策を練らないと人は来ない。その対策が何なのか。色々な方法があると思うが、やはり受け入れ体制が整っていないと匝瑳市には来ないと思う。
身体障害者福祉会	・ 良い例を挙げると多古のニュータウン。今はスーパーもできバスターミナルも子ども園もある。20 年どうしようもなかった場所が今、脚光を浴びている。長野の南にある田舎の村では、若い人が定着している。10 年以上若い人が住めば村が相当助成している。そのような若い人が住む団地や市の助成がないと来ないのかなとも思う。 自分が大病を患ったとき、匝瑳市民病院ではなく多古中央病院を勧められた。 今、市で話が出ているパークゴルフではなく、より多くの人が利用する匝瑳市民病院を建て替えて充実を図るべきではないか。 高齢化については、後期基本計画概要版３ページの冒頭に健康・福祉・医療分野と記載があるが、高齢者や障害者が笑顔で住めるまちづくりが大切ではないか。介護保険制度が 2000 年に誕生してから、約 20 年経ったが、要介護３以上で相当体が悪くないと特別養護老人ホームに入れない状況である。若者も大切だが、これだけ高齢者が多いのだから高齢者が安心して住めるまちにして欲しい。

人権擁護委員協議会	・　団体の活動内容とは直接関係ないが、人口が減少する中で少しでも抑制するために、空き家対策を積極的に取り組んでいただけたらと思う。現在、空き家バンクなどあるが、広く周知して、より推進してもらえたらありがたい。そのことが防犯にも関係してくるとも思う。 　また、人権擁護委員という立場として話をさせてもらうが、全国的にいじめが増加し、自殺するケースもある状況である。匝瑳市では、教育委員会や教員に協力してもらい、市内の小中学校で、人権教室を開催している。この取組については、学校や保護者から良い反応を頂いている。地域を含め、学校と家庭の連携強化が大切ではないか。
市長	・　空き家の話が出たが、市では昨年条例を制定した。空き家の再利用や再活用など積極的に取り組んでいく予定である。 　いじめの問題については、先日もＰＴＡ役員と校長との会合で、学校と家庭の連携が子どもの成長には最も重要で、そのためにはどうしたら良いか話をした。以前から取り組んではいるが、更に強化をしていく。行政からも働きかけるようにしたいと思っている。 　子ども関連の話しということで、12 月広報に掲載予定だが、市では、毎日夕方、防災行政無線を通じて「子どもたちへの帰宅の呼び掛けと地域の皆さんへの見守りをお願いする放送」をしているが、来年１月から半年間、中学生の声による放送を試験的に実施するので、反応などを聞かせてもらえるとありがたい。
不法投棄監視員連絡会議	・　2025 年までに団塊の世代が全て 75 歳以上になり、匝瑳市の人口が約 33,000 人に減少するという話を聞くが実際のところどうなのか。11 月広報をみると、匝瑳市の財政は非常に優秀だと思うが、今後、少子高齢化が進んでいくことから、なるべく健全な財政でお願いしたい。また、財政に関して今後どういうビジョンで行くのか。
市長	・　財政状況については、今のままであれば匝瑳市は危惧することはない。市町村には家庭でいう貯金に当たる財政調整基金というものがあり、匝瑳市では約 30 億円積立てていて、今後もその方針で進めていく。ただ、今後予定している市民病院と消防署の建て替え、広域ごみ処理施設の建設においては、多額の支出をせざるを得ない。 　先ほど話の出たパークゴルフ場の件だが、費用として約５億円かかる。合併特例債が認められたので、市から持ち出す金額はそれほど多くない。費用の内訳は３億円がパークゴルフ場の整備費用で、残り２億円は建物や周辺の整備費用となっている。また、パークゴルフの競技人数は、協会に加入している人数は 100 人から 200 人程度だが、協会に加入しないで競技をしている人を含めるともっと多い。その人たちが他の自治体でプレイしており、匝瑳市での整備要望があったため今回踏み切らせてもらった。
不法投棄監視員連絡会議	・　人口の減少について言及して欲しい。

事務局	・　人口減少が進んでいることは市の中心的な課題。国立社会保障・人口問題研究所が算定した数字では、50 年後の 2060 年には 16,815 人になるという推計をしている。市では、平成 22 年（2010 年）の国勢調査の数字をベースに 50 年後はどうなるかを試算している。2060 年の人口目標を 22,000 人以上とし、平成 28 年３月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。人口を増やすことは難しいので減る割合を抑えていきたいと考えている。その対策として、先ほど話に出た空き家バンクを有効に使って移住を増やす計画や、都会から元気な高齢者が移住できるよう飯倉駅前では九十九里ホームが中心に行っている事業などがある。
不法投棄監視員連絡会議	・　今後、年寄りが多くなり、地域の担い手がいなくなってしまう。未来の子どもたちに対して、財政基盤をきちんとしないといけない。匝瑳市は裕福な市ではないので余分な事業をしない。市民病院の建て替えなどは仕方がないと思うが、借金を作らないことが大事ではないか。
市長	・　病院の話だが、本来は今年度から建て替えの予定だったが、議会からも意見を頂戴し、現在の経営状況で建て替えていいのか、もう少し経営を建て直してから建て替えたらいいだろうという話もあり、平成 32 年度まで市民病院の経営の建て直しということで頑張ってもらい、平成 32 年度中に市民病院の建て替えの検討を行う。赤字の額も多少減っている。現在の計画では、50 億円位かけて病床 100 と考えているが、平成 32 年度に再度、市民にとってその計画は本当に良いものか検討したい。病院の建て替えはしないということではなく、現在検討して進めているということなので御理解いただきたいと思う。市民病院サポーター会など市民の皆様に協力を頂いてはいるが、病院のあり方について何か意見があれば頂戴したい。
不法投棄監視員連絡会議	・　病院の経営は難しい。借金をしない方向で行ってもらわないと今後が困る。
市長	・　市民病院は必要ですから。将来につけを回さないように、また、市民の命と健康を守れるよう頑張りたい。
旭匝瑳医師会	・　医療の現場で働いている人間として、市民病院の方と付き合いがある中で、話を聞くと、正直、市民病院で働いている人の志気が低い。市がやる気を出さない、足を引っ張るといった話を聞く。市から送り込んでくる人間の能力が低く、１～２年で変わっていく。病院経営は難しく、知識のある人間が行わないとすぐに赤字になってしまう。正直、市が率先して潰しにきているような印象を受けてしまう。
市長	・　送り込む人間というのは事務局サイドという認識であっているか。
旭匝瑳医師会	・　会話の中で、事務局という言葉は良く聞くので多分事務局のことだろう。医師や看護師、支える助手が必要だが、ほぼ院長が市民病院を支えているというのが現状だろう。彼も 70 歳近くなので院長が引退などでいなくなったら未来はないだろう。千葉大学の外科に融通を利かせて外科関係の医師は確保しているが、内

	科は今ほとんどいないので病棟は動いていない。現場の人間として、現在の状況では未来がないという認識。市民病院は必要という言葉が聞こえてくるが、その割には注力していない印象である。医師も生活がかかっていることもあり、匝瑳市のために自分の人生を捧げようという者はいない。医師は、やる気のある病院に行く。何を言っても行政が一番足を引っ張っているように思う。
市長	・　自治体病院は、総じて医師確保に苦慮している。しっかりやっているつもりだが、今後も力を貸して欲しい。
旭匝瑳医師会	・　力を貸して欲しいとは言っても所詮、病院運営は市なので、現在と同じやり方だと望みはないと思う。
防犯協会	・　防災行政無線の使用について、決まりはあるのか。
市長	・　運用規則がある。何か希望はあるか。
防犯協会	・　事件があった場合、警察ではなく防犯協会から防災行政無線で広報したいときがある。使いやすくして欲しい。
事務局	・　人命に関すること、防犯に関することの広報周知は可能だと思う。申請してもらい、内容によって精査する。そのような内容であれば防犯の事務局は環境生活課が担当しているので相談してもらうのが放送の近道だと思う。
防犯協会	・　環境生活課にいったが、許可が下りなかった。
市長	・　個人的な要素が多いと難しい。具体的な話は担当課が聞かせてもらう。
身体障害者福祉会	・　農業について話をしたい。現在、米作りをしているのは 70 歳代で、あと 10 年で全滅してしまう恐れがある。旭市や銚子市に比べビニールハウスによる施設園芸が盛んではないし、植木も減っていることもあり、匝瑳市の基幹産業そのものがなくなってしまうのではないかと危惧している。そういった中で、残土の問題がある。多古町で何町歩もの広さに朝早くから石灰が混ざった再生土が搬入されていたので、地下水に影響がないのか心配。
不法投棄監視員連絡会議	・　再生土の搬入は、今のところ匝瑳市ではほとんど行われていない。
身体障害者福祉会	・　再生土処理など計画の中でも取り入れて欲しい。住みにくい地域になってしまうのでよろしくお願いする。
旭匝瑳薬剤師会	・　少子高齢化という言葉は毎日のように見聞きする。高齢化は自動的になってしまうが、問題は少子化の改善。住んでいる集落では、18 軒のうち６軒は後継ぎがいなくて 60 歳代である。これでは少子化の改善はまず不可能で活力あるまちにはならない。市では婚活をやっていると思うが、進捗を教えて欲しい。
事務局	・　婚活は企画課が担当している。先ほど話があった人口減少対策事業の１つである。イベントの目的として、出会いをまず作りましょうということで、独身の男女のマッチングを８年ほど行っている。事業を始めた頃は、参加者 40～50 人の申込みがあり、それ以上の申込みがあるときは枠を拡大するなどしていたが、現在は20人対20人程度の規模になっている。定員まで参加者が集まらない場合は、縮小してイベントを開催することもある。男性は原則、市内限定で募集し、女性

	は市外からでも参加可能としているが、女性が集まらない。これは周辺自治体も同じような課題であり、どこも解決に至らない状況にある。そこで市では、婚活サポーターという制度を新たに立ち上げた。出会いの場を作るだけではなく、個々に結婚を求めている人の支援をしようという、いわゆる仲人的な人をボランティアで募って支援してもらうという制度である。現在サポーター数は４人である。事業が始まったばかりで現在は成婚事例がないが、徐々に効果が上がればと思っている。
消防団	・　知り合いが、市の婚活イベントに２回程参加した。ただ、２回とも参加した女性が同じで、仕込みで参加しているのかなという感想を持ち、それ以降の参加は見送っているようだ。ただ、サポーター制度ができたのであれば、また、本人の気持ちが違ってくるかもしれない。消防団員が減少しているので若い人に結婚してもらい子どもが増えて欲しいという気持ちになる。自分の知り合いだけではなく、若い人が結婚に対する気持ちが自分の世代とは違う。今の若い世代は、仕事を終えた後はパソコンに向かっている。パソコンを通じて全国に友達がいる状況。友だちは無数にいるけど、自分で結婚相手を見つけられない。 　消防団としては、後期基本計画概要版８ページの「いざという時の安心安全プラン」について意見を述べたい。東日本大震災や昨年の災害から地区の住民の防災・避難に対する意識は高くなり、この前の台風時も、早めに声をかけあって避難している。非常に良いことだと思うので、今まで以上に防災に対する支援をしてもらえたらうれしい。もう１点お願いがある。今年７月に鴨川市で消防団長が集まる会があった。その際、コンサルタントから防災に対するレクチャーがあった。避難した人が、避難した順で誰でも避難所を準備できるシステムについての話が印象に残った。避難所の鍵は区長、地区支部長、学校が持っているので、この中の誰かが開けることになる。吉田の場合は駐在所が小学校に近いので、駐在所に鍵があると良いのではないか。実際に被災した際、誰かが開錠しないと避難所は使えない。自由に開錠することが難しいのであれば、せめて、総務課や防災関連の電話番号のシールを玄関に貼るなど対応をするべきではないか。正直、避難所に行く前に総務課の電話番号を調べてから向かう人はいないと思う。そういう小さなことが大事なのでは。また、避難所に入った人が、行うべき内容が誰でも分かるような仕組みづくりが必要だと思う。その場に市の職員が行くことができないとなった場合、どこに何があって、どうしたらよいかを明白にしておくべきだと思う。大震災が起きたとき、誰でも避難所の使い方が分かるようにしておくというのは良いアイディアだと、話を聞いて思った。本当に何かが起きた場合のシステムを考えた方が良いのかなと思う。市は防災に関しては、一番頑張ってくれていると思うので今後ともよろしくお願いしたい、
市長	・　現在、防災の避難所は何かあったときは、ぶち破ってでも入って良いということになっている。貴重な意見を頂き感謝する。
区長会	・　総合計画については、７月に団体意識調査があり、その中に書かせてもらった

	ことを含めて話をする。45 年間匝瑳市に住んでおらず７年前に戻ってきたため、現状の匝瑳市はどのような計画を策定しているのか知らなかったので、前期の計画、中期、後期と読ませてもらった。感じたことは、良いことを沢山書いてあるので、この計画のままいけばバラ色の匝瑳市になっているはずだと。表に出すものなので、きれいなことを書くのは仕方ないかもしれないが、結果として商店街のシャッター通りはどうするか、農業の高齢化の問題などを計画に盛り込むべきではないか。目に見えるものをやってくれないと匝瑳市は良くなっているのかわからないというような意見が区長会内でも出ているのでその辺りを考慮していただきたい。 今回のテーマである匝瑳市の理想の将来像について提案させてもらう。匝瑳市の資源を生かしたまちづくりをしなければならないのではないか。無いものねだりではなく、匝瑳市の資源は何かを考えたら農業や植木、養鶏畜産がメインになるので「緑を活かしたまちづくり」を考えていくべきではないだろうか。 もう１点、先ほど九十九里ホームの話が出たが、都会の裕福な人が住みたくなるまちづくりを目指すべきではないか。四季折々の田んぼの風景はそれぞれ美しく、感動するが、そのようなところが全く活かされていないように思う。都会の裕福な人が老後に匝瑳市に住みたいと思うようなまちづくりをすれば良いのではないかと思う。 ２点目、現在、住んでいる人が困らないまちづくりをしてもらいたい。区長会の役員として一番困っているのは、高齢のため組織から抜けたいという地区が沢山出てきていること。高齢で年金生活のため会費を払うのが大変という声が上がっている。匝瑳市のコミュニティの見直しを図って、お金のかからないよう見直しをするべきではないか。以前、住んでいた地域では区費は年間 500 円だったが、匝瑳市に戻ってきた際には１万円徴収された。赤い羽根共同募金も以前は自由だったが、匝瑳市は強制となっている。そのようなところを変えていかないと、若い世代はコミュニティへ参加しないと思う。根本的に見直していかないといけない。そういうところを総合計画の中に盛り込んで欲しい。 例えば、３年経ったらシャッター街が変わってきたという、みんなが見て分かるような施策を打っていくことが必要だと思う。先ほど話が出た市民病院の話においても、全国の市民病院が全部赤字なら仕方がないが、黒字の市民病院もあると思う。その事例を参考にして、どのような病院にすれば良いのか検討していくことが必要だと思う。民間では２年も時間をくれる計画はない。３か月徹夜で計画を作っても遅いと言われる。匝瑳市もそれぐらいのスピード感を持って改善してもらえるとありがたい。
ボランティア連絡協議会	・　リーディングプランを読むとコンサルタントが書いていると思うが、良く書けている。ただ、創造性やサプライズがないのでは。具体的な施策を作る際には、市民参加がないといけない、行政の中で考えていても限界がある。市民病院の話にもあったが、年功序列で職員を送り込んでいるかと思う。定年間近の人が課長

	になると思うが、一生懸命リスクを取ってやる人でないと変わらない。施策づくりのために市民を参加させて欲しい。それが協働につながると思う。協働のまちづくりの会に参加しているが、協働がなかなか市民に浸透しない。協働という言葉が市民に知られていないからだと思う。市民と協働し、新しいまちづくりをしていこうと言っているが実行できていないので本腰を入れて行って欲しい。サポートセンターの職員は嘱託である。一生懸命やっているが、もっとやってくれないと協働というのは動かない。予算もない。市長は市民参加で協働と言っているが、予算が無いと何もできない。話していることと実施していることに矛盾があるように思う。もっと行政は、市民の中に入って欲しい。行政の意識改革も行って欲しい。そういう形で新しい匝瑳市づくりをしていけたら良いと思う。よかっぺ祭りの名前を市民協働祭りに変更してもらえないか。そうすることで市民協働を理解してもらえるのではないか。 　そして、農業も含めて経済が匝瑳市の弱点である。経済を再生しないと市の発展はない。国の特区ではなく市の特区を私の住む地区に作って欲しい。活力ある地区にする自信がある。思い切ったサプライズをお願いしたい。
市長 身体障害者福祉会事務局	・　手厳しい中にも的確な御意見を頂いたと思う。 ・　市役所の知恵だけではなく、民間の知恵を拝借した方が良いのでは。 ・　担当部署が来ていないので適正な回答ができなかった部分があったかもしれないが、頂いた意見は市役所内で情報共有をしっかりしていきたいと思う。貴重な意見を頂き、今後検討していく中で充分対処していきたいと思う。 **５．閉会** **以　上**